

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年12月12日

【事業年度】 第117期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

【会社名】 オカモト株式会社

【英訳名】 OKAMOTO INDUSTRIES, INC.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 岡本 良幸

【本店の所在の場所】 東京都文京区本郷三丁目27番12号

【電話番号】 03(3817)4111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 高島 寛

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区本郷三丁目27番12号

【電話番号】 03(3817)4121

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 高島 寛

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

1. 訂正の経緯

平成26年9月中旬に当社の静岡工場において帳簿在庫と実際在庫に差異が発見されたため、当社管理部による調査を実施してまいりました。その結果、棚卸資産の過大計上による不適切な会計処理が確認されたため、平成26年10月30日、不適切な会計処理が判明した旨を開示するとともに、平成26年11月4日に当社と利害関係を有しない外部の専門家で構成される第三者委員会を設置し、その旨を開示いたしました。

同日以降、第三者委員会は不適切な会計処理に関する事実認定、背景及び原因の究明分析、併せて今後の再発防止策の提言等を目的として調査を実施し、平成26年12月10日、当社は第三者委員会より調査結果を記載した調査報告書を受領いたしました。

平成26年12月10日付の第三者委員会による調査報告書の指摘を受け、過去に提出いたしました有価証券報告書に記載されている連結財務諸表及び財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、有価証券報告書等の訂正報告書を提出することを、平成26年12月12日の取締役会の承認を経て決定いたしました。

2. 会計処理

連結財務諸表及び財務諸表において、「原材料及び貯蔵品」、「仕掛品」の残高を修正するとともに、関連する「売上原価」の金額を修正し、その他必要と認められる修正を行いました。

これらの決算訂正により、当社が平成25年6月27日付で提出いたしました第117期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

訂正後の連結財務諸表及び財務諸表については、新日本有限責任監査法人により監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

なお、連結財務諸表及び財務諸表の記載内容に係る訂正箇所についてはXBRLの修正も行いましたので、併せて修正後のXBRLデータ一式（表示情報ファイルを含む）を提出いたします。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

1 業績等の概要

2 生産、受注及び販売の状況

7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

2 財務諸表等

監査報告書

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
決算年月		平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月
売上高	(百万円)	72,422	64,130	67,037	68,762	70,008
経常利益	(百万円)	2,454	4,148	2,808	2,947	3,892
当期純利益	(百万円)	1,403	2,751	1,482	1,483	2,206
包括利益	(百万円)			586	1,736	4,796
純資産額	(百万円)	36,274	39,912	38,606	38,514	41,815
総資産額	(百万円)	64,441	69,186	67,941	68,972	72,871
1株当たり純資産額	(円)	324.19	358.70	357.07	367.35	407.74
1株当たり 当期純利益金額	(円)	12.49	24.64	13.50	13.96	21.29
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	56.3	57.7	56.8	55.8	57.4
自己資本利益率	(%)	3.7	7.2	3.8	3.8	5.5
株価収益率	(倍)	28.4	15.9	22.6	22.7	14.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,809	6,089	4,058	3,742	4,272
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	836	2,283	2,888	1,988	3,699
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,457	2,071	2,082	1,976	2,067
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	8,665	10,408	9,453	9,182	7,769
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用人員)	(名)	1,466 (457)	1,430 (524)	1,493 (582)	1,523 (576)	1,503 (577)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第113期、第114期、第115期及び第116期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 第117期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
決算年月		平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高	(百万円)	59,560	53,429	55,404	56,733	58,328
経常利益	(百万円)	1,832	3,432	2,247	<u>2,484</u>	<u>3,624</u>
当期純利益	(百万円)	1,117	2,269	1,178	<u>1,725</u>	<u>2,167</u>
資本金	(百万円)	13,047	13,047	13,047	13,047	13,047
発行済株式総数	(千株)	116,996	116,996	111,996	108,996	106,996
純資産額	(百万円)	37,411	40,547	39,177	<u>39,450</u>	<u>42,400</u>
総資産額	(百万円)	64,448	70,412	68,881	<u>70,084</u>	<u>73,804</u>
1株当たり純資産額	(円)	333.94	363.97	361.90	<u>375.79</u>	<u>412.89</u>
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円) (円)	7.50 (3.75)	7.50 (3.75)	7.50 (3.75)	7.50 (3.75)	7.50 (3.75)
1株当たり 当期純利益金額	(円)	9.93	20.29	10.72	<u>16.21</u>	<u>20.89</u>
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	58.0	57.6	56.9	56.3	<u>57.5</u>
自己資本利益率	(%)	2.8	5.8	3.0	<u>4.4</u>	<u>5.3</u>
株価収益率	(倍)	35.8	19.3	28.5	<u>19.6</u>	<u>15.2</u>
配当性向	(%)	75.5	37.0	70.0	<u>46.3</u>	<u>35.9</u>
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用人員)	(名)	901 (403)	889 (429)	898 (451)	904 (449)	907 (443)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第113期、第114期、第115期及び第116期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 第117期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【沿革】

- 昭和9年1月 資本金5万円をもって日本ゴム工業株式会社として荏原区戸越町(現在の品川区平塚)において設立。
- 昭和24年6月 東京証券取引所に上場。
- 昭和33年2月 理研ゴム株式会社と合併し、商号を日本理研ゴム株式会社と改める。
- 昭和33年8月 大阪出張所(現大阪支店)を開設。
- 昭和36年6月 本社を現在地に移転。
- 昭和36年8月 神奈川工場(神奈川県座間市)を設立。
- 昭和36年10月 東京証券取引所市場第一部銘柄となる。(市場第二部開設に伴い)
- 昭和38年9月 名古屋営業所を開設。
- 昭和39年4月 群馬工場(群馬県太田市)を設立。
- 昭和40年3月 OM., Inc.(現Okamoto U.S.A., Inc.)(現連結子会社)を設立。
- 昭和43年2月 岡本ゴム工業株式会社と合併し、商号を岡本理研ゴム株式会社と改める。
- 昭和44年2月 東京証券取引所貸借銘柄に選定される。
- 昭和47年6月 子会社株式会社岡本理研茨城製作所を吸収し、茨城工場を設立。
- 昭和51年5月 ゼブラケンコー自転車株式会社を合併。
- 昭和56年4月 福岡営業所を開設。
- 昭和59年2月 創立50周年。
- 昭和60年3月 静岡工場(静岡県榛原郡吉田町)を設立し、神奈川工場の製造設備を移設拡充。
- 昭和60年10月 社名を岡本理研ゴム株式会社よりオカモト株式会社に改める。
- 昭和60年12月 神奈川工場閉鎖。
- 平成元年7月 仏国、ミシュラン社と合併会社ミシュランオカモトタイヤ株式会社を設立し、当社群馬工場タイヤ製造設備を譲渡。
- 平成5年10月 子会社岡本ゴム株式会社より営業譲受で、福島工場(福島県いわき市)を設立。
- 平成10年10月 株式譲受で、タイ王国にラテックス手袋製造会社Siam Okamoto Co., Ltd.(現連結子会社)を設立。
- 平成12年3月 タイヤの合併事業を解消、ミシュランオカモトタイヤ株式会社株式を売却。
- 平成12年4月 株式譲受によりヒルソン・デック株式会社を連結子会社とする。
- 平成13年10月 新和産業株式会社がオカモト化成品販売株式会社より営業譲受け、オカモト新和株式会社に商号変更し、連結子会社とする。
- 平成14年10月 連結子会社オカモトフットウェア株式会社を吸収合併。
- 平成16年7月 株式会社ユニオン・ロイヤルの会社更生法による手続の終結。
- 平成16年9月 世界長株式會社を吸収分割により連結子会社とする。
- 平成16年12月 三宝樹脂工業株式会社の吸収分割により化粧フィルム(建材用)事業を承継。
- 平成17年3月 イチジク製薬株式会社を株式取得により連結子会社とする。
- 平成19年3月 当社シューズ製品の営業部門を世界長株式會社へ統合。
- 平成19年7月 Okamoto Sandusky Manufacturing, LLCを設立。
- 平成19年10月 オカモト新和株式會社よりオカモト化成品株式会社へ商号変更。
- 平成20年4月 Okamoto North America, Inc.(現連結子会社)及びOkamoto Realty, LLCを設立。
- 平成22年7月 連結子会社Okamoto Realty, LLCとOkamoto Sandusky Manufacturing, LLCは、Okamoto Realty, LLCを存続会社とした吸収合併を行い、商号をOkamoto Sandusky Manufacturing, LLCに変更。
- 平成22年10月 連結子会社世界長株式會社と株式会社ユニオン・ロイヤルは、世界長株式會社を存続会社とした吸収合併を行い、商号を世界長ユニオン株式會社(現連結子会社)に変更。
- 平成22年12月 連結子会社Okamoto U.S.A., Inc.とOkamoto Sandusky Manufacturing, LLCは、Okamoto U.S.A., Inc.を存続会社とした吸収合併を行い、同時に産業用製品事業(自動車内装材及び部品)を会社分割し、Okamoto North America, Inc.の完全子会社として新たにOkamoto Sandusky Manufacturing, LLC(現連結子会社)を設立。

3 【事業の内容】

当社及び当社の関係会社(子会社22社及び関連会社1社(平成25年3月31日現在))においては、産業用製品(主要製品：プラスチックフィルム、建装・産業資材)と生活用品(主要製品：医療・日用品、シューズ、衣料・スポーツ用品)の製造及び販売を主な内容として密接な相互協力のもと、活動を展開しております。

事業内容の当社と関係会社の位置付けは、次のとおりであります。

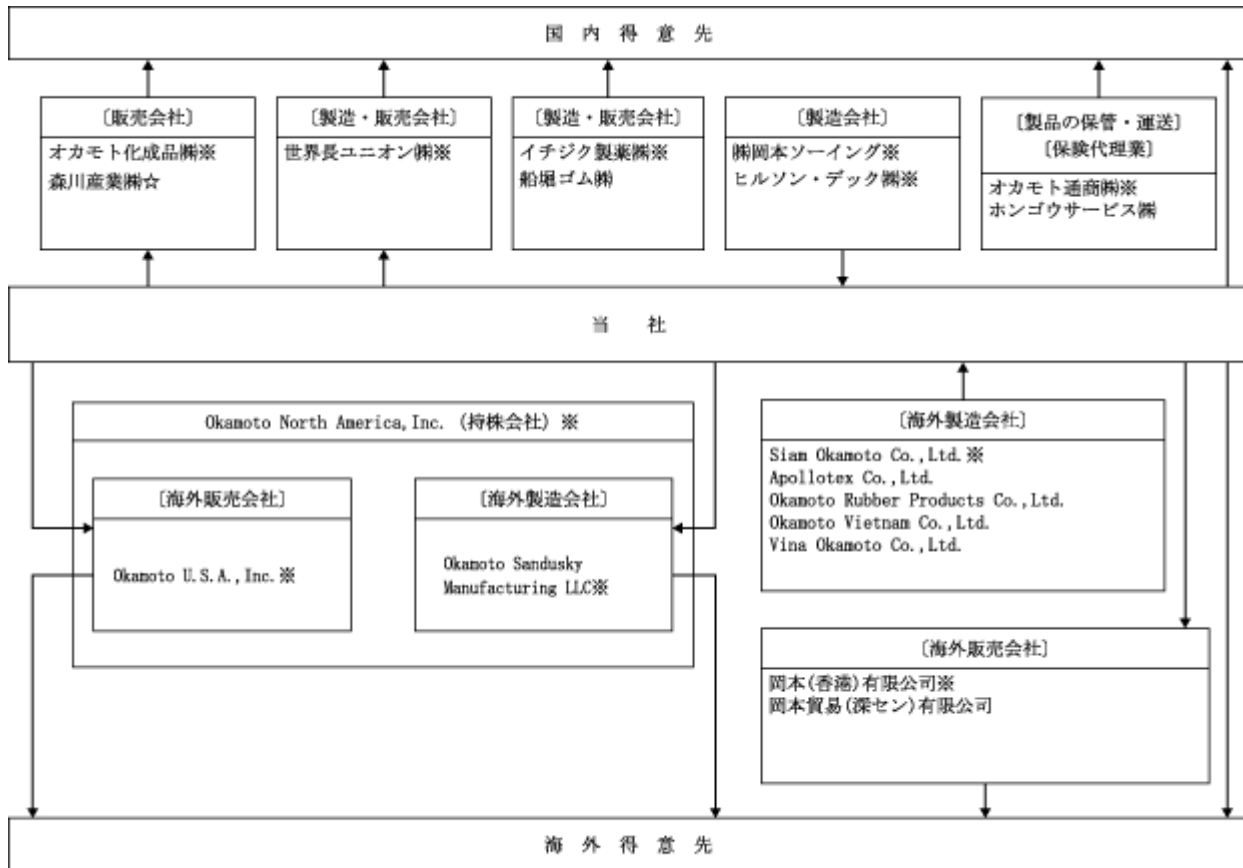
なお、事業区分は「第5 経理の状況1(1) 連結財務諸表注記」に掲げるセグメント情報の区分と同一のものであります。

産業用製品	プラスチックフィルム及び建装・産業資材の製造・仕入及び販売を行っております。 〔会社名〕 当社、オカモト化成品(株)、船堀ゴム(株)、Okamoto U.S.A., Inc.、 岡本(香港)有限公司、岡本貿易(深セン)有限公司、 Apollotex Co., Ltd.、Okamoto Sandusky Manufacturing, LLC
生活用品	医療・日用品、シューズ、衣料・スポーツ用品の製造・仕入及び販売を行っております。 〔会社名〕 当社、イチジク製菓(株)、世界長ユニオン(株)、(株)岡本ソーイング、 ヒルソン・デック(株)、Okamoto U.S.A., Inc.、岡本(香港)有限公司、 Siam Okamoto Co., Ltd.、Okamoto Rubber Products Co., Ltd.、 Okamoto Vietnam Co., Ltd.、Vina Okamoto Co., Ltd.、森川産業(株)
その他	製品輸送及び保管事業を行っている会社は下記のとおりであります。 オカモト通商(株) 持株会社は下記のとおりであります。 Okamoto North America, Inc.

- (注) 1 船堀ゴム(株)は株式の取得により、平成24年4月26日をもって当社の非連結子会社となっております。
 2 非連結子会社である岡本化成国際貿易(深セン)有限公司は、平成24年5月8日をもって清算終了しております。
 3 (株)岡本ソーイングは平成25年5月17日をもってシューテックオカモト(株)に商号を変更しております。

〔事業系統図〕

事業の系統図は、次のとおりであります。



※は連結子会社 ☆は特分法適用会社 ←は製品の流れ

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有〔被所有〕割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合(%)	
(連結子会社) イチジク製菓(株)	東京都 文京区	35	生活用品	100		役員の兼任1名
オカモト化成品(株)	東京都 文京区	33	産業用製品	100		当社のプラスチックフィ ルム等の販売先 役員の兼任2名
(株)岡本ソーイング	東京都 文京区	10	生活用品	100		当社のシューズの仕入先 役員の兼任2名
オカモト通商(株)	東京都 文京区	45	その他	100		当社製品の保管輸送 営業用固定資産の賃貸 役員の兼任2名
世界長ユニオン(株)	東京都 文京区	98	生活用品	100		当社のシューズの販売先 営業用固定資産の賃貸 役員の兼任2名
ヒルソン・デック(株)	東京都 文京区	12	生活用品	100		当社の医療・日用品の 仕入先 役員の兼任2名
岡本(香港)有限公司	WANCHAI HONGKONG	千香港ドル 6,000	産業用製品 生活用品	100		主として当社のシュー ズ・衣料の仕入先 役員の兼任1名
Okamoto U.S.A., Inc.	STRATFORD CONNECTICUT U.S.A.	千米ドル 2,000	産業用製品 生活用品	100 (100)		主として当社のプラス チックフィルム等の販売 先 役員の兼任1名
Siam Okamoto Co., Ltd.	KLONGLUANG PHATHUMTHANEE THAILAND	千バーツ 245,000	生活用品	100		当社の医療・日用品の 仕入先 役員の兼任2名
Okamoto North America, Inc.	DELAWARE U.S.A.	千米ドル 22,600	その他	100		役員の兼任1名
Okamoto Sandusky Manufacturing, LLC	OHIO U.S.A.	千米ドル 20,598	産業用製品	100 (100)		役員の兼任3名
(持分法適用関連会社) 森川産業(株)	東京都 千代田区	109	生活用品	20 (2)	0.63	当社の医療・日用品の 販売先

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 上記のうち、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
3 Okamoto North America, Inc.及びOkamoto Sandusky Manufacturing, LLCは特定子会社であります。
4 「議決権の所有〔被所有〕割合」欄の()内数字は間接所有割合(内数)であります。
5 世界長ユニオン(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報	売上高	7,157百万円
	経常利益	163百万円
	当期純利益	102百万円
	純資産額	1,096百万円
	総資産額	3,387百万円

- 6 (株)岡本ソーイングは平成25年5月17日をもってシューテックオカモト(株)に商号変更しております。また、平成25年5月31日付で世界長ユニオン(株)を引受先とする第三者割当増資を実施し、資本金が10百万円から20百万円となりました。これに伴い同社に対する提出会社の議決権の間接所有割合が100分の50となっております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
産業用製品	634 (243)
生活用品	521 (171)
その他	284 (156)
全社(共通)	64 (7)
合計	1,503 (577)

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
- 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
- 3 臨時従業員には、季節工、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。
- 4 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
907 (443)	37.3	14.8	5,576

セグメントの名称	従業員数(名)
産業用製品	477 (239)
生活用品	167 (142)
その他	199 (55)
全社(共通)	64 (7)
合計	907 (443)

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
- 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
- 3 臨時従業員には、季節工、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。
- 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

組合名：オカモト労働組合(日本ゴム連合)

組合員数：770名(平成25年3月31日現在の人数であり、出向者を含んでおります。)

(労使関係について、特に記載すべき事項はありません。)

なお、連結子会社である世界長ユニオン(株)の労働組合は日本ゴム連合に所属しております。

また、それ以外の連結子会社には労働組合は組織されておられません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、長引く欧州債務危機や米国における財政問題、また中国をはじめとする新興国経済の減速などの影響もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

わが国経済においても、東日本大震災からの復興とともに緩やかな内需拡大が見受けられますが、世界経済の下振れ懸念等もあり総じて不安定な状況が継続しました。一方、政権交代に伴う経済政策への期待感から円高是正により企業収益の改善、株価上昇など一部に明るい兆しが見えつつあります。また、輸出環境の改善や経済・金融政策の効果などを背景に景気回復へ向うことが期待されているものの、海外景気の下振れが、引き続きわが国の景気を下押しするリスクとなっています。

こうした厳しい経営環境のもと当社グループは、設備の合理化および省力化と今後の増産を見据え国内外の生産体制の再編に取り組んでおります。また物流費の削減に注力するとともに、継続的なコスト削減と営業力の強化によるシェア拡大に努めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は前年を上回り、700億8百万円(前年同期比1.8%増)となりました。利益面につきましては製造コストならびに営業経費の削減に努めた結果、営業利益は29億20百万円(前年同期比17.2%増)となりました。また、経常利益は為替の影響により38億92百万円(前年同期比32.0%増)、当期純利益は22億6百万円(前年同期比48.8%増)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりです。

産業用製品

一般用および産業用フィルムは、市場での需要は低調でしたが、海外向けの受注回復もあり売上増となりました。建材工業用フィルムは、住宅着工件数が回復傾向にあり売上増となりました。多層フィルムは工業用が売上増となりましたが、食品用が包装形態の変更に伴い売上減となり、多層フィルム事業としては前年並みとなりました。農業用フィルムは、農産物価格の低迷、マーケット需要期の在庫調整で売上減となりました。壁紙は、住宅着工の安定的な伸びと、リフォーム需要の継続的な伸びにより売上増となりました。フレキシブルコンテナは、石油化学メーカー向けの需要が減少するも、復興需要により大幅な売上増となりました。自動車内装材は、北米での増産により上期から堅調に推移し、下期に入り中国との外交問題に起因した減産による影響を受けたものの売上増となりました。粘着テープは、市況の低迷により一般卸部門は引続き苦戦しましたが、小売用がこれをカバーし、建築用・防水用が堅調に推移し、売上微増となりました。工業用テープは、スマートフォン用の新規受注に成功するも電子部品用は低調で、売上微減となりました。食品衛生関連商品は、タイ工場の生産も洪水前の状況に戻り、上期はほぼ計画通りでしたが、下期はラップ、衛生用品ともに苦戦したものの通期では売上増となりました。食品用吸水・脱水シートであるピチット製品は、主に東北三陸地区のユーザー・販売店の復興により、販売増となりました。

以上により、当セグメントの売上高は402億79百万円(前年同期比4.5%増)、セグメント利益は18億88百万円(前年同期比19.8%増)となりました。

生活用品

コンドームは、引き続き少子化・晩婚化による市場規模縮小の中、数量は横這いでありましたが、高付加価値薄型コンドーム002シリーズの新アイテムの発売や販売施策等により売上増となりました。また、コンドームの海外販売は、中国都市部などアジアでの売上が好調であります。除湿剤は、最需要期の梅雨時から夏場の低温により、既存の得意先は前年割れでありましたが、新規得意先の獲得により売上増となりました。カイロは、残暑が長引き、秋口の導入がずれ込んだこと、2月から3月が平年並みの気温により終盤の販売が伸びなかったことにより売上減となりました。入浴剤は、市場価格の下落、過当競争の激化により売上減となりました。手袋は、食品用および医療用は堅調に推移しましたが、産業用が需要低迷により売上減となりました。滅菌器は、入札案件の減少により売上微減となりました。シューズは、仕入先での労務費・材料高等、コストの上昇で厳しい環境でありましたが、積極的な販促活動により堅調に推移しました。雨衣・ブーツは、積極的な拡販と売り場への定番化が進み売上増となりました。特にブーツは、降雪により防寒品の販売が増加しました。

以上により、当セグメントの売上高は297億29百万円(前年同期比1.7%減)、セグメント利益は24億40百万円(前年同期比7.9%増)となりました。

その他

当セグメントの売上高は0百万円(前年同期比89.6%減)、セグメント利益は1億円(前年同期比5.2%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ14億12百万円(15.4%)減少し、77億69百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、42億72百万円(前年同期比14.2%増)となりました。

増加の主な内訳は、税金等調整前当期純利益38億91百万円、減価償却費23億47百万円であり、減少の主な内訳は、たな卸資産の増加8億54百万円、仕入債務の減少3億97百万円、その他負債の減少4億4百万円、法人税等の支払額15億10百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、36億99百万円(前年同期比86.1%増)となりました。

支出の主な内訳は、定期預金の預入れによる支出14億50百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出19億97百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、20億67百万円(前年同期比4.6%増)となりました。

支出の主な内訳は、配当金の支払額7億83百万円及び自己株式の取得による支出7億12百万円であります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
産業用製品	34,059	3.6
生活用品	13,119	4.8
合計	47,178	1.1

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当グループは、見込生産の他、一部受注生産を行っております。

従って、当連結会計年度における受注生産に関する受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
産業用製品	25,241	9.4	2,069	4.0
生活用品	1,896	2.1	182	11.4
合計	27,138	8.5	2,251	4.6

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
産業用製品	40,279	4.5
生活用品	29,729	1.7
その他	0	89.6
合計	70,008	1.8

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後の見通しにつきましては、政府が掲げる経済政策を背景に、景気回復への期待感が高まりつつある状況にあります。しかしながら、円安への進行は原材料価格およびエネルギー費用の上昇にも繋がる要因にもなり、先行きは依然として不透明なまま続くものと思われれます。

このような情勢のなか当社グループは、持続的な成長を果たすために、コア事業のさらなる拡大のため「身近な暮らしを科学する」を掲げ、顧客ニーズを満たす品ぞろえの強化と販売地域の拡大に取り組んでまいります。

また、新たな需要の開拓を推進するため、静岡・茨城の両研究開発センターを中心に研究開発投資をはじめとする経営資源を集中的に投入し、環境負荷の低減に貢献する新商品の開発を行い、商品の付加機能高めるとともに、さらなる品質の向上を図るよう努めてまいります。

一方、コスト構造の改善を図るため、米国や東南アジアの海外工場は、今後の戦略事業として位置付け、設備投資を加速して事業の拡大を進めてまいります。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

当社は、平成19年6月28日開催の第111回定時株主総会において株主の皆様のご承認をいただき、「当社株券等の大規模買付行為に関する対応策」を導入し、平成22年6月29日開催の第114回定時株主総会により継続(以下、継続後の対応策を「現プラン」といいます。)しておりますが、現プランの有効期限は、平成25年6月開催予定の第117回定時株主総会(以下、「本株主総会」といいます。)終結の時までとなっております。

当社では、現プラン導入後も社会・経済情勢の変化、買収防衛策をめぐる諸々の動向および様々な議論の進展を踏まえ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるための取組みのひとつとして、継続の是非も含め、その在り方について引き続き検討してまいりました。

その結果、平成25年5月10日開催の当社取締役会において、会社法施行規則第118条第3号に定める当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針(以下、「会社の支配に関する基本方針」といいます。)に照らして不適切な者によって、当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取組みとして、現プランを継続(以下、新たに継続するプランを「本プラン」といいます。)することを決議し、平成25年6月27日開催の当社第117回定時株主総会において承認を得ております。

・ 会社の支配に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者としては、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者が望ましいと考えます。また当社は、当社の株主の在り方は、当社株式は金融商品取引所に上場しておりますので、株主は市場での自由な取引を通じて決まるものと考えています。したがって当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方は、最終的には株主の皆様全員の意思に基づき決定されるべきものと考えています。

しかしながら大規模な買付行為や買付提案の中には、株主の皆様様に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、株主の皆様が買付の条件等を検討したり、当社取締役会が代替案を提案する為の十分な時間や情報を提供しないもの、明らかに濫用目的であるもの等、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのあるものもありえます。

このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、例外的に当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切と判断します。

・ 会社支配に関する基本方針の実現に資する取り組み

当社グループは「創意あふれる技術を集結して、健康的で快適な人間生活に寄与する商品をつくり出し、当社に関係する人々により大きな満足を与えることをめざす」ことを企業使命としております。

当社グループの事業領域は、大きく産業用製品事業と生活用品事業に分かれ、その代表的な商品は産業用ではフィルム、壁紙、フレキシブルコンテナ、自動車内装材、テープ、食品衛生用品、食品用吸水・脱水シート等、生活用ではコンドーム、カイロ、除湿剤、入浴剤、メディカル製品、手袋、シューズ・雨衣等と多岐に亘りますが、これらの事業は昭和9年創業以来培ってきた素材の研究と高度な技術を追い求めたこと、並びに会社の統合・合併・事業の譲受等により吸収した製造技術・ノウハウが加味され現在の当社グループの事業創造に役立っています。これを基盤として当社グループは環境にやさしい製品を世に送り出し、株主、顧客、取引先、地域社会、従業員などの様々のステークホルダーとの友好な関係の維持、発展に努めてまいりました。これら有形・無形の資産を活用して中長期的な視野に立って企業価値と株主共同の利益の向上に努めてまいります。

当社は、国内の市場が伸び悩むなかで、全社を上げて「身近な暮らしを科学する」をキャッチフレーズに新製品の開発とグループ取扱商品の拡大に努めております。また利益体質を強化する意味で、品質向上と原価逓減のためグループを上げて3S活動の徹底と継続、省資源の促進及び廃棄物の削減による環境負荷低減を目的に、本社・工場・支店・営業所・子会社を含めたグループ全体で環境問題への取り組み強化を実施し、ISO14001の全部所での認証取得を目指しています。

当社は、企業理念体系(企業使命・経営理念・行動基準)を基本としてコンプライアンス規定を制定し、コーポレートガバナンス(企業統治)の充実に努めています。また会社法に定める内部統制構築に関する基本方針により企業統治に関する組織、規定を充実させ、企業の透明性・効率性・健全性をより高めるとともに、取締役、監査役の役割の明確化に努めています。

当社では、多数の投資家の皆様に長期的に当社への投資をご継続頂くために、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための取り組みとして、以上のような施策を実施しています。これらの取り組みは、今般決定しました上記、の基本方針の実現にも資するものと考えています。

・ 本プランの内容(会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取組み)

1. 本プランの目的

本プランは、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みとして継続するものです。

当社は、当社株式に対する大規模な買付等が行われた場合でも、その目的等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものであれば、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えられるものではありません。また、支配権の移転を伴う買収提案に応じるかどうかの判断も、最終的には株主の皆様の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大規模な買付等の中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対して明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主の皆様に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、取締役会や株主の皆様が株式の大規模な買付等の内容等について検討し、あるいは取締役会が代替案を提示するために合理的に必要十分な時間や情報を提供することのないもの、買付条件等が買付等の対象とされた会社の企業価値ひいては株主共同の利益に鑑み不十分または不適当であるもの、買付等の対象とされた会社の企業価値の維持・増大に必要なステークホルダーとの関係を破壊する意図のあるもの等、大規模な買付等の対象とされた会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

そこで、当社取締役会は、当社株式に対して大規模な買付行為等が行われた場合に、株主の皆様が適切なご判断をするために、必要な情報や時間を確保し、買付者等との交渉等が一定の合理的なルールにしたがって行われることが、企業価値ひいては株主共同の利益に合致すると考え、以下の内容の大規模買付時における情報提供と検討時間の確保等に関する一定のルール(以下、「大規模買付ルール」といいます。)を設定し、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって大規模な買付行為がなされた場合の対応方針を含めた買収防衛策として、本株主総会における株主の皆様のご承認を条件に、本プランとして継続することといたしました。

2. 本プランの対象となる当社株式の買付

本プランの対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループ(注1)の議決権割合(注2)を20%以上とすることを目的とする当社株券等(注3)の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為(いずれについてもあらかじめ当社取締役会が同意したものを除き、また市場取引、公開買付等の具体的な買付方法の如何を問いません。以下、かかる買付行為を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。)とします。

注1：特定株主グループとは、

- () 当社の株券等(金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等をいいます。)の保有者(同法第27条の23第3項に基づき保有者に含まれる者を含みます。以下同じとします。)およびその共同保有者(同法第27条の23第5項に規定する共同保有者をいい、同条第6項に基づく共同保有者とみなされる者を含みます。以下同じとします。)又は、
 - () 当社の株券等(同法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。)の買付等(同法第27条の2第1項に規定する買付等をいい、取引所金融商品市場において行われるものを含みます。)を行う者およびその特別関係者(同法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。)
- を意味します。

注2：議決権割合とは、

- () 特定株主グループが、注1の()記載の場合は、当該保有者の株券等保有割合(金融商品取引法第27条の23第4項に規定する株券等保有割合をいいます。この場合においては、当該保有者の共同保有者の保有株券等の数(同項に規定する保有株券等の数をいいます。以下同じとします。)も加算するものとします。)又は、
- () 特定株主グループが、注1の()記載の場合は、当該大規模買付者及び当該特別関係者の株券等保有割合(同法第27条の2第8項に規定する株券等所有割合をいいます。)の合計をいいます。

各議決権割合の算出に当たっては、総議決権(同法第27条の2第8項に規定するものをいいます。)および発行済株式の総数(同法第27条の23第4項に規定するものをいいます。)は、有価証券報告書、四半期報告書及び自己株券買付状況報告書のうち直近に提出されたものを参照することができるものとします。

注3：株券等とは、金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等又は同法第27条の2第1項に規定する株券等のいずれかに該当するものを意味します。

3. 独立委員会の設置

大規模買付ルールにしたがって一連の手続きが進行されたか否か、あるいは大規模買付ルールが遵守された場合でも、当該大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうものであることを理由として対抗措置を講じるか否かについては、当社取締役会が最終的な判断を行います。本プランを適正に運用し、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止し、その合理性・公正性を担保するため、現プランと同様に独立委員会規程に基づき、独立委員会を設置いたします。独立委員会の委員は3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外監査役又は社外有識者(注)のいずれかに該当する者の中から選任します。現在の独立委員会委員である社外監査役の小川明氏、深澤武久氏、清水紀彦氏は、本プランへの継続後も引き続き独立委員会委員として就任しております。

当社取締役会は、対抗措置の発動に先立ち、独立委員会に対し対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は当社の企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から大規模買付行為について慎重に評価・検討のうえで当社取締役会に対し対抗措置を発動することができる状態にあるか否かについての勧告を行うものとします。当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで対抗措置の発動について決定することとします。独立委員会の勧告内容については、その概要を適宜公表することといたします。

なお、独立委員会の判断が、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するようになされることを確保するために、独立委員会は、当社の費用で、必要に応じて独立した第三者である専門家(ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家)等の助言を得ることができるものとします。

注：社外有識者とは、経営経験豊富な企業経営者、投資銀行業務に精通する者、弁護士、公認会計士、会社法等を主たる研究対象とする学識経験者、またはこれらに準ずる者をいいます。

4. 大規模買付ルールの概要

(1) 大規模買付者による当社に対する意向表明書の提出

大規模買付者が大規模買付行為を行おうとする場合には、大規模買付行為または大規模買付行為の提案に先立ち、まず、大規模買付ルールに従う旨の誓約を含む以下の内容等を日本語で記載した意向表明書を、当社の定める書式により当社取締役会に提出していただきます。

大規模買付者の名称、住所

設立準拠法

代表者の氏名

国内連絡先

提案する大規模買付行為の概要

本プランに定められた大規模買付ルールに従う旨の誓約

当社取締役会が、大規模買付者から意向表明書を受領した場合は、速やかにその旨及び必要に応じ、その内容について公表します。

(2) 大規模買付者による当社に対する評価必要情報の提供

当社取締役会は、上記(1)、 から までの全てが記載された意向表明書を受領した日の翌日から10営業日以内に、大規模買付者に対して、大規模買付行為に関する情報として当社取締役会への提出を求める事項について記載した書面を交付し、大規模買付者には、当該書面に従い、大規模買付行為に関する情報(以下、「評価必要情報」といいます。)を、当社取締役会に書面にて提出していただきます。

評価必要情報の一般的な項目は以下のとおりです。その具体的内容は、大規模買付者の属性、大規模買付行為の目的および内容によって異なりますが、いずれの場合も株主の皆様のご判断および当社取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な範囲に限定するものとします。

大規模買付者およびそのグループ(共同保有者、特別関係者および組合員(ファンドの場合)その構成員を含みます。)の詳細(名称、事業内容、経歴または沿革、資本構成、当社および当社グループの事業と同種の事業についての経験等に関する情報を含みます。)

大規模買付行為の目的、方法および内容(大規模買付行為の対価の価額・種類、大規模買付行為の時期、関連する取引の仕組み、大規模買付行為の方法の適法性、大規模買付行為の実現可能性等を含みます。)

大規模買付行為の価格の算定根拠(算定の前提となる事実、算定方法、算定に用いた数値情報および大規模買付行為にかかる一連の取引により生じることが予想されるシナジーの内容を含みます。)

大規模買付行為の資金の裏付け(資金の提供者(実質的提供者を含みます。)の具体的名称、調達方法、関連する取引の内容を含みます。)

当社および当社グループの経営に参画した後に想定している役員候補(当社および当社グループの事業と同種の事業についての経験等に関する情報を含みます。)、経営方針、事業計画、財務計画、資本政策、配当政策、資産活用策等

当社および当社グループの経営に参画した後に予定している取引先、顧客、従業員等のステークホルダーと当社および当社グループとの関係に関する変更の有無およびその内容

当社取締役会は、大規模買付ルールの迅速な運用を図る観点から、必要に応じて、大規模買付者に対し情報提供の期限を設定することがあります。ただし、大規模買付者から合理的な理由に基づく延長要請があった場合は、その期限を延長することができるものとします。

上記に基づき提出された評価必要情報について当社取締役会が精査した結果、当該評価必要情報が大規模買付行為を評価・検討するための情報として必要十分でないと考えられる場合には、当社取締役会は、大規模買付者に対して、適宜合理的な期限を定めた上で、評価必要情報が揃うまで追加的に情報提供を求めることがあります。

当社取締役会は、大規模買付行為を評価・検討するための必要十分な評価必要情報が大規模買付者から提出されたと判断した場合には、その旨の通知を大規模買付者に発送するとともに、その旨を公表いたします。

また、当社取締役会が評価必要情報の追加的な提供を要請したにもかかわらず、大規模買付者から当該情報の一部について提供が難しい旨の合理的な説明がある場合には、取締役会が求める評価必要情報が全て揃わなくても、大規模買付者との情報提供にかかる交渉等を打ち切り、その旨を公表するとともに、後記(3)の取締役会による評価・検討を開始する場合があります。

当社取締役会に提供された評価必要情報は、独立委員会に提出するとともに、株主の皆様のご判断のために必要であると認められる場合には、当社取締役会が適切と判断する時点で、その全部または一部を公表します。

(3) 当社取締役会による評価必要情報の評価・検討等

当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し評価必要情報の提供を完了した後、対価を現金(円価)のみとする公開買付による当社全株式の買付の場合は最長60日間、その他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間(以下、「取締役会評価期間」といいます。)として設定します。取締役会評価期間中、当社取締役会は、必要に応じて独立した第三者である専門家(ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家)等の助言を受けながら、提供された評価必要情報を十分に評価・検討し、独立委員会からの勧告を最大限尊重したうえで、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、公表いたします。また、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会として株主の皆様へ代替案を提示することもあります。

5. 大規模買付行為が為された場合の対応方針

(1) 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律および当社定款が認める対抗措置を講じることにより大規模買付行為に対抗する場合があります。なお、大規模買付ルールを遵守したか否かを判断するにあたっては、大規模買付者側の事情をも合理的な範囲で十分勘案し、少なくとも本評価必要情報の一部が提出されないことのみをもって大規模買付ルールを遵守しないと認定することはしないものとします。

(2) 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様を説得するに留め、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、株主の皆様において、当該買付提案および当社が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等をご考慮のうえ、ご判断いただくこととなります。

但し、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が、例えば以下の から のいずれかに該当し、結果として会社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと当社取締役会が判断する場合には、例外的に当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として必要かつ相当な範囲で、上記(1)で述べた対抗措置の発動を決定することができるものとします。

真に当社の経営に参加する意思がないにもかかわらず、ただ株価をつり上げて高値で株式を会社関係者に引き取らせる目的で株式の買収を行っている場合(いわゆるグリーンメーラーである場合)

当社の経営を一時的に支配して当社または当社グループの事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先や顧客等を当該買収者やそのグループ会社等に移譲させるなど、いわゆる焦土化経営を行う目的で当社株式の買収を行っている場合

当社の経営を支配した後、当社または当社グループの資産を当該買収者やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する予定で当社株式の買収を行っている場合

当社の経営を一時的に支配して当社または当社グループの事業に当面関係していない不動産、有価証券など高額資産等を売却等処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるかあるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って当社株式の高値売り抜けをする目的で株式買収を行っている場合

大規模買付者の提案する当社株式の買付方法が、いわゆる強圧的二段階買収(最初の買付で当社の株式の全部の買付を勧誘することなく、二段階目の買収条件を不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付等の株式の買付を行うことをいいます。)等の、株主の皆様判断の機会または自由を制約し、事実上、株主の皆様が当社株式の売却を強要するおそれがあると判断された場合

大規模買付者の提案する当社の株券等の買付条件(買付対価の種類及び金額、当該金額の算定根拠、その他の条件の具体的内容、違法性の有無、実現可能性等を含むがこれに限りません。)が当社の企業価値ひいては株主共同の利益に照らして著しく不十分または不適切であると判断される場合

大規模買付者による支配権獲得により、当社株主の皆様はもとより、当社グループの持続的な企業価値増大の実現のために必要不可欠な、顧客、取引先、従業員、地域社会その他の利害関係者との関係を破壊する等によって、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合

大規模買付者による買付後、経営方針等が不十分または不適當であるため、当社事業の成長性・安定性が阻害され、中長期的な将来との企業価値の比較において、当該大規模買付者が支配権を取得しない場合の当社の企業価値と比べ著しく劣後すると判断される場合、大規模買付者の経営陣もしくは出資者に反社会的勢力と関係を有するものが含まれている等、大規模買付者が公序良俗の観点から当社の支配株主として著しく不適切であると判断される場合

(3) 取締役会の決議、および株主総会の開催

当社取締役会は、上記(1)または(2)において対抗措置の発動の是非について判断を行う場合は独立委員会の勧告を最大限尊重し、対抗措置の必要性、相当性等を十分検討したうえで対抗措置発動または不発動等に関する会社法上の機関としての決議を行うものとします。

また、当社取締役会は、独立委員会が対抗措置の発動について勧告を行い、発動の決議について株主総会の開催を要請する場合には、株主の皆様の本プランによる対抗措置を発動することの可否を十分にご検討いただくための期間(以下、「株主検討期間」といいます。)として最長60日間の期間を設定し、当該株主検討期間中に当社株主総会を開催することがあります。

当社取締役会において、株主総会の開催および基準日の決定を決議した場合は、取締役会評価期間はその日をもって終了し、ただちに、株主検討期間へ移行することとします。

当該株主総会の開催に際しては、当社取締役会は、大規模買付者が提供した必要情報、必要情報に対する当社取締役会の意見、当社取締役会の代替案その他当社取締役会が適切と判断する事項を記載した書面を、株主の皆様に対し、株主総会招集通知とともに送付し、適時・適切にその旨を開示します。

株主総会において対抗措置の発動または不発動について決議された場合、当社取締役会は、当該株主総会の決議にしたがうものとします。したがって、当該株主総会が対抗措置を発動することを否決する決議をした場合には、当社取締役会は対抗措置を発動いたしません。当該株主総会の終結をもって株主検討期間は終了することとし、当該株主総会の結果は、決議後適時・適切に開示いたします。

(4) 大規模買付行為待機期間

株主検討期間を設けない場合は取締役会評価期間を、また株主検討期間を設ける場合には取締役会評価期間と株主検討期間のあわせた期間を大規模買付行為待機期間とします。そして大規模買付行為待機期間においては、大規模買付行為は実施できないものとします。

したがって、大規模買付行為は、大規模買付行為待機期間の経過後にのみ開始できるものとします。

(5) 対抗措置発動の停止等について

上記(3)において、当社取締役会または株主総会において具体的対抗措置を講じることを決定した後、当該大規模買付者が大規模買付行為の撤回または変更を行った場合など対抗措置の発動が適切でないとして当社取締役会が判断した場合には、独立委員会の意見又は勧告を十分に尊重したうえで、対抗措置の発動の停止等を行うことがあります。

例えば、対抗措置として新株予約権の無償割当を行う場合、当社取締役会において、無償割当が決議され、または、無償割当が行われた後においても、大規模買付者が大規模買付行為の撤回または変更を行うなど対抗措置の発動が適切でないとして取締役会が判断した場合には、独立委員会の勧告を受けた上で、新株予約権の効力発生日の前日までの間は、新株予約権無償割当の中止、または新株予約権無償割当後において、行使期間開始日の前日までの間は、当社による当該新株予約権の無償取得(当社が新株予約権を無償で取得することにより、株主の皆様の新株予約権は消滅いたします。)の方法により対抗措置の発動の停止等を行うことができるものとします。

このような対抗措置発動の停止等を行う場合は、独立委員会が必要と認める事項とともに、法令および当社が上場する金融商品取引所の規則等にしたがって、当該決定について適時・適切に開示いたします。

6. 本プランによる株主の皆様にご与える影響等

(1) 大規模買付ルールが株主の皆様にご与える影響等

大規模買付ルールは、株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見を提供し、株主の皆様が代替案の提示を受ける機会を確保することを目的としています。これにより株主の皆様は、十分な情報および提案のもとで、大規模買付行為に応じるか否かについて適切にご判断をすることが可能となり、そのことが当社の企業価値ひいては株主共同の利益の保護につながるものと考えます。したがって、大規模買付ルールの設定は、株主の皆様が適切にご判断を行ううえでの前提となるものであり、株主の皆様のご利益に資するものであると考えております。

なお、上記5.において述べたとおり、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守するか否か等により大規模買付行為に対する当社の対応が異なりますので、株主の皆様におかれましては、大規模買付者の動向にご注意ください。

(2) 対抗措置発動時に株主の皆様にご与える影響

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合または、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、大規模買付行為が当社に回復し難い損害をもたらすなど当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律および当社定款により認められている対抗措置をとることがありますが、当該対抗措置の仕組上、株主の皆様(大規模買付ルールを遵守しない大規模買付者および会社に回復し難い損害をもたらすなど当社株主全体の利益を損なうと認められるような大規模買付行為を行う大規模買付者を除きます。)が法的権利又は経済的側面において格別の損失を被るような事態が生じることが想定しておりません。当社取締役会が具体的対抗措置を講じることを決定した場合には、法令および金融商品取引所規則等にしたがって適時・適切な開示を行います。

対抗措置の一つとして、例えば新株予約権の無償割当てを実施する場合には、当社株主の皆様は引受けの申込みを要することなく新株予約権の割当てを受け、また当社が新株予約権の取得の手続きをとることにより、新株予約権の行使価額相当の金銭を払込むことなく当社による新株予約権の取得の対価として当社株式を受領することになるため、申込みや払込み等の手続は必要となりません。ただし、この場合当社は、新株予約権の割当てを受ける株主の皆様に対し、別途ご自身が新株予約権者等でないこと等を誓約する当社所定の書式による書面のご提出を求めています。

なお、当社は、新株予約権の割当期日や新株予約権の効力発生後においても、例えば、大規模買付者が大規模買付行為を撤回した等の事情により、新株予約権の行使期間開始日の前日までに、新株予約権の割当てを中止し、または当社が新株予約権に当社株式を交付することなく無償にて新株予約権を取得することがあります。これらの場合には、1株あたりの株式の価値の希釈化が生じることを前提にして売付等を行った株主の皆様は、株価の変動により相応の損害を被る可能性があります。

7. 本プランの適用開始、有効期限、継続および廃止

本プランは、当社第117回定時株主総会の開催日の平成25年6月27日より発効することとし、有効期限は平成28年6月30日までに開催される当社第120回定時株主総会の終結の時までとします。但し、当社第117回定時株主総会の開催日以降発効した後であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合、当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

また、本プランの有効期間中であっても、当社取締役会は、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から随時見直しを行い、株主総会の承認を得て本プランの変更を行うことがあります。このように、当社取締役会において本プランについて継続、変更、廃止等の決定を行った場合には、その内容を速やかに開示します。

なお、当社取締役会は、本プランの有効期間中であっても、本プランに関する法令、金融商品取引所規則等の新設または改廃が行われ、かかる新設または改廃を反映するのが適切である場合、誤字脱字等の理由により字句の修正を行うのが適切な場合等、株主の皆様にご不利益を与えない場合には、必要に応じて独立委員会の承認を得たうえで、本プランを修正し、または変更する場合があります。

・本プランの合理性について（本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて）

1. 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省および法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しています。

また、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容も踏まえたものとなっております。

2. 株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、上記 .1.「本プランの目的」にて記載したとおり、当社株式に対する大規模買付行為がなされた際に、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入しております。

3. 株主意思を反映するものであること

本プランは、本株主総会での承認により発効することとしており、本株主総会において本プランに関する株主の皆様のご意思をご確認させていただくため、株主の皆様のご意向が反映されることとなっております。

また、本プランの有効期間の満了前であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されます。

4. 独立性の高い社外者の判断の重視

本プランにおける対抗措置の発動は、上記 .5.「大規模買付行為が実施された場合の対応方針」にて記載したとおり、当社の業務執行を行う経営陣から独立している委員で構成される独立委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に適うように本プランの透明な運用を担保するための手続も確保されております。

5. デッドハンド型買収防衛策ではないこと

上記 .7.「本プランの適用開始、有効期限、継続および廃止」にて記載したとおり、本プランは、当社の取締役会により廃止することができるものとされており、当社株式の大規模買付者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。したがって、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 海外展開に伴うリスク

当社グループでは事業をグローバルに展開していますが、昨今の国際情勢で景気の後退が顕著な地域や一部には政治的な緊迫感が高まっている地域があります。当社グループが活動している地域で、政治・経済・法改正等により、労働力不足・ストライキ・テロ、戦争などの発生が考えられます。これらが当社グループの経営成績や財政状況などに影響を及ぼす可能性があります。

(2) 大規模地震の発生

東海地震・東南海地震の可能性が高いと言われておりますが、当社の産業用製品事業の主力工場は静岡県吉田町に位置していることから、出来る限りの地震対策を講じると共に、最悪の事態を想定し、最大限の地震保険を付保する等の手を打っております。しかしながら、原材料の確保や一時的な生産中止、市場への製品の供給に支障をきたし、経営成績や財政状態に影響を及ぼすことが懸念されます。

(3) 製品管理のリスク

当社グループの製品を製造・販売する上で、使用する原材料や製造装置に対して、安全面・環境面から法的規制が設けられています。これらの規制に適合した製品の販売のためISO9001及びISO14001の認証を取得し、開発段階から安全面・環境面に配慮した試験研究を行い品質的に優れたものを発売しています。しかしながら、予想を超える品質トラブルが発生すれば、売上の減少等経営成績や財政状態に支障をきたす懸念があります。

(4) 原材料価格の高騰のリスク

当社グループの製品群の多くは、石油など1次産品をもとにした原材料を加工したものであり、ここ数年来の原材料価格の高騰に伴い、製品価格に転嫁が出来ないような景気動向が続く場合、営業利益への圧迫が懸念されます。

(5) 季節要因のリスク

当社グループの製品群であるカイロ、雨衣、除湿剤等については、季節的要因、特に冷夏・暖冬といった天候の影響を受けやすく、またシューズ、コンドーム等については、生活様式や人口動態などの影響を受けやすいものがあります。

これらの要因については、完全に予測することができず事前に十分な対策を打つことは困難であるため、これらの要因により、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 為替変動のリスク

当社グループは、海外への製品販売等の外貨建取引があるので、為替レート変動による影響を受けることがあります。為替予約等による相場変動のリスクヘッジを行っているものの、急激な為替レートの変動は、業績に影響を与える可能性があります。特に輸入商品については当然に短期的なリスクヘッジをしていますが、それを超える急激な円安は営業費用の上昇を招き、営業利益への圧迫が懸念されます。

(7) 情報漏洩のリスク

当社グループは、事業活動において顧客等の個人や信用に関する情報を入手し、他企業等の情報を受け取ることがあります。これらの情報の秘密保持には細心の注意を払い、情報の漏洩が生じないよう最大限の管理に努めていますが、不測の事態により情報が外部に流出する可能性があります。この場合には、損害賠償等の多額な費用負担が発生して、事業活動やブランドイメージに影響が及ぶ可能性があります。また事業上の重要機密が第三者に不正流用される恐れもあり、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) その他のリスク

当社は経営の基本方針として法令遵守を掲げていますが、昨今の電子技術の発達により思わぬ事態が発生するかも知れないことも一つのリスクといえます。

5 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループは、今まで独自の技術とノウハウを培い、高品質、高性能を追求することにより、「オカモトブランド」に対する消費者の信頼性を高める努力を続けてきました。

今後も、常に消費者に求められる「人々の生活に役立つ環境にやさしい製品」を積極的に開発し、提供したいと思っております。

現在、産業用製品の研究開発は静岡研究開発センターを中心に、また生活用品については茨城研究開発センターを中心に行っております。

当連結会計年度における当社グループが支出した研究開発費の総額は8億54百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動を示すと、次のとおりであります。

(1) 産業用製品

当社が中心となり、プラスチックフィルム、農業用フィルム、自動車内装材、食品包装用フィルム、壁紙等の分野で、新素材、複合機能商品、非塩ビ商品、環境配慮商品等の消費者のニーズにあった商品開発を行っており、また粘着製品では包装用、工業用(電気・電子用テープ等)の新素材、新用途及び環境配慮商品の研究開発を行っております。

当セグメントに係る研究開発費の金額は5億67百万円であります。

(2) 生活用品

当社が中心となり、スキン、手袋、カイロ、除湿剤、介護用品、医療機器、レジャー用品、雨衣、シューズ、ブーツ等の分野にて多様化するニーズに応えるため研究開発を行っております。

当セグメントに係る研究開発費の金額は2億87百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって採用している重要な会計基準は、「第5 経理の状況」に記載のとおりであります。

なお、当社グループの連結財務諸表の作成において、貸倒引当金、賞与引当金、退職給付引当金等の計上について見積り計算を行っており、これらの見積りについては過去の実績等を勘案して合理的に判断をしておりますが、見積り特有の不確実性が存在するため、実際の結果は見積りと異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

資産

当連結会計年度末における総資産は728億71百万円で、前連結会計年度末と比べ38億99百万円増加しております。

流動資産は425億88百万円で、前連結会計年度末と比べ65百万円の増加となりました。これは主として、商品及び製品5億37百万円、仕掛品2億13百万円が増加し、受取手形及び売掛金が5億79百万円減少したことによるものです。

固定資産は302億82百万円で、前連結会計年度末と比べ38億34百万円の増加となりました。これは主として、投資有価証券が41億27百万円増加したことによるものです。

負債

当連結会計年度末における総負債は310億56百万円で、前連結会計年度末と比べ5億98百万円増加しております。

流動負債は232億17百万円で、前連結会計年度末と比べ17億71百万円の減少となりました。これは主として、1年内償還予定の社債15億円、1年内返済予定の長期借入金10億円が減少し、短期借入金10億17百万円増加したことによるものです。

固定負債は78億38百万円で、前連結会計年度末と比べ23億69百万円増加しております。これは主として、長期借入金10億円、繰延税金負債が11億3百万円増加したことによるものです。

純資産

当連結会計年度末における純資産は418億15百万円で、前連結会計年度末と比べ33億1百万円増加しております。これは主として、利益剰余金7億70百万円、その他有価証券評価差額金22億83百万円が増加したことによるものです。

(3) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度における経営成績の概況については、「第2 事業の状況 1業績等の概要」に記載のとおりであります。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資金状況は、基本的には営業活動によるキャッシュ・フローに依存しており、借入債務についても一定水準を維持し流動性を阻害しておりません。なお、設備投資計画も実施する予定であります。手持ち資金で賄い、それに係る借入れの計画はありません。

また、資金の流動性については、「第2 事業の状況 1業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

なお、当グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは、下記のとおりであります。

	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期
自己資本比率 (%)	57.7	56.8	55.8	57.4
時価ベースの自己資本比率 (%)	63.0	48.5	48.2	44.6
債務償却年数 (年)	0.6	0.9	0.9	0.7
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	85.3	60.5	55.4	95.5

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

債務償却年数：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

- (注) 1 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。
 2 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。
 3 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の「営業活動によるキャッシュ・フロー」を使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

(5) 戦略的現状と見通し

当社グループは、欧米諸国や新興国の経済動向あるいは自然災害等の影響により今後事業環境が変化するリスクも想定されますが、上記の経営方針のもと更なる成長と事業基盤の拡大に努めるため、次の課題を重点的に取り組んでまいります。

近年、生活用品ならびに産業用製品において、事業の継承や経営権の取得等を通じて事業の多角化を進めてまいりましたが、これらのグループ企業ならびに事業における生産及び販売で一層の相乗効果を出し、各社・各事業がグループ全体の売上および利益に貢献することです。

原油価格や為替の変動等の事業リスクにより国内の経済活動の混乱が懸念されますが、かかる状況下、売上が減少しても固定費の変動化・経費の圧縮等を更に進め確たる利益が計上できる体質に変えることです。

競争力のある高付加価値の新製品を市場に投入していくためには、研究開発力の維持・向上が欠かせません。当社グループでは、研究開発センターを中心に長年培ってきた技術を生かして製造コストの削減はもちろん製造期間の短縮・品質の向上等モノづくりの強化に努めてまいります。また、コスト構造の抜本的改善を図るため、海外での資材調達・製造・物流等事業体制の最適化を進めてまいります。

環境問題への取り組みの更なる強化です。ユーザーの環境対応商品の要望を的確に捉えた商品の上市による顧客満足度向上と、省資材の促進及び廃棄物の削減による環境負荷低減を目的に、ISO14001認証の企業グループとして引き続き積極的な取り組みを行います。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ(当社及び連結子会社)は、主として産業用製品(主要製品：プラスチックフィルム、建築・産業資材)と生活用品(主要製品：医療・日用品、シューズ、衣料・スポーツ用品)の製品の製造販売を行っており、その中での成長製品の開発、供給のために資本を集中することを方針として、設備投資を継続的に行っております。

当連結会計年度においては、総額17億72百万円の設備投資を実施しました。

産業用製品では、プラスチックフィルムで押出機を新設し、またその他の設備の合理化・更新も行い13億98百万円の投資を実施しました。

生活用品では、主として福島工場におけるシューズの製造設備の合理化・更新を行い3億58百万円の投資を実施しました。

これらの所要資金は自己資金を充当しております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
静岡工場 (静岡県吉田町)	産業用製品	プラスチックフィルム 他生産設備	961	2,289	413 (232)	86	3,750	429
茨城工場 (茨城県龍ヶ崎市)	産業用製品 生活用品	医療・日用品 他生産設備	1,030	1,022	530 (165)	28	2,612	195
福島工場 (福島県いわき市)	産業用製品 生活用品	シューズ他 生産設備	767	687	55 (95)	5	1,515	52
本社 (東京都文京区)		全社管理 販売業務	203	5	104 (0.4)	10	323	231

(2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
イチジク製薬(株)	本社 (東京都墨田区)	生活用品	医療・日用品の 生産設備	471	176	592 (1.9)	17	1,257	41
オカモト通商(株)	本社 (茨城県牛久市)	その他	保管運送 設備・賃貸	24	0	247 (14.5)	28	301	80

(3) 在外子会社

平成25年3月31日現在

会社名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
Siam Okamoto Co.,Ltd.	タイ王国	生活用品	医療・日用品の 生産設備	41	53	60 (18)	10	165	111
Okamoto Sandusky Manufacturing,LLC	米国オハイオ州	産業用製品	産業用製品 の生産設備	240	940	52 (89)	127	1,361	95

(注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	静岡工場 (静岡県 吉田町)	産業用製品	プラスチック フィルム、建 装・産業用資材 の生産設備	351		自己資金	平成25年4月	平成26年1月	生産能力の 3.0%増加
	茨城工場 (茨城県 龍ヶ崎市)	産業用製品 生活用品	産業資材、医 療・日用品の生 産設備	273		自己資金	平成25年4月	平成25年12月	生産能力の 3.5%増加
	福島工場 (福島県 いわき市)	産業用製品 生活用品	プラスチック フィルム、医 療・日用品、衣 料・スポーツ用 品の生産設備	110		自己資金	平成25年4月	平成26年1月	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の改修(更新、合理化投資を含む)等

会社名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	静岡工場 (静岡県 吉田町)	産業用製品	プラスチック フィルム、建 装・産業用資材 の生産設備	540		自己資金	平成25年4月	平成26年2月	
	茨城工場 (茨城県 龍ヶ崎市)	産業用製品 生活用品	産業資材、医 療・日用品の生 産設備	136		自己資金	平成25年5月	平成25年12月	
	福島工場 (福島県 いわき市)	産業用製品 生活用品	プラスチック フィルム、医 療・日用品、衣 料・スポーツ用 品の生産設備	154		自己資金	平成25年4月	平成26年3月	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	106,996,839	106,996,839	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株でありま す。
計	106,996,839	106,996,839		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年9月5日 (注)1		119,996,839		13,047	2,000	1,448
平成21年3月31日 (注)2	3,000,000	116,996,839		13,047		1,448
平成21年7月30日 (注)3		116,996,839		13,047	1,000	448
平成23年2月17日 (注)4	5,000,000	111,996,839		13,047		448
平成24年2月16日 (注)5	3,000,000	108,996,839		13,047		448
平成25年3月15日 (注)6	2,000,000	106,996,839		13,047		448

(注) 1 資本準備金の減少は平成20年6月27日開催の定時株主総会決議によるその他資本剰余金への振替額であります。

2 自己株式の消却による減少であります。

3 資本準備金の減少は平成21年6月26日開催の定時株主総会決議によるその他資本剰余金への振替額であります。

4 自己株式の消却による減少であります。

5 自己株式の消却による減少であります。

6 自己株式の消却による減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		35	30	181	85	1	7,145	7,477	
所有株式数(単元)		30,231	682	30,695	3,977	5	40,836	106,426	570,839
所有株式数の割合(%)		28.40	0.64	28.84	3.74	0.00	38.37	100	

- (注) 1 自己株式4,303,848株は「個人その他」に4,303単元、「単元未満株式の状況」に848株含まれております。
2 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の中には証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ8単元及び50株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
明治安田生命保険相互会社	千代田区丸の内2-1-1	7,426	6.94
丸紅株式会社	千代田区大手町1-4-2	7,211	6.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	中央区晴海1-8-11	5,461	5.10
株式会社みずほコーポレート銀行	千代田区丸の内1-3-3	5,133	4.80
株式会社損害保険ジャパン	新宿区西新宿1-26-1	4,393	4.11
有限会社八幡興産	大田区久が原4-39-9	3,530	3.30
みずほ信託銀行株式会社	中央区八重洲1-2-1	2,944	2.75
やよい会	文京区本郷3-27-12	2,533	2.37
平井商事株式会社	江戸川区平井4-11-4-701	2,086	1.95
オカモトグループ社員持株会	文京区本郷3-27-12	1,966	1.84
計		42,684	39.89

- (注) 1 上記のほか当社所有の自己株式4,303千株(4.02%)があります。
2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 5,461千株
みずほ信託銀行株式会社 122千株

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,303,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 102,123,000	102,123	同上
単元未満株式	普通株式 570,839		同上
発行済株式総数	106,996,839		
総株主の議決権		102,123	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ8,000株(議決権8個)及び50株含まれております。

2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式が次のとおり含まれております。

自己保有株式 848株

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) オカモト株式会社	東京都文京区 本郷3 - 27 - 12	4,303,000		4,303,000	4.02
計		4,303,000		4,303,000	4.02

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年12月12日)での決議状況 (取得期間平成23年12月13日～平成24年6月15日)	1,000,000	350,000,000
当事業年度前における取得自己株式	494,000	152,568,000
当事業年度における取得自己株式	506,000	159,366,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	0	38,066,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	0.0	10.9
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	0.0	10.9

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年6月6日)での決議状況 (取得期間平成24年6月11日～平成24年12月21日)	1,000,000	350,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	1,000,000	311,738,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	0	38,262,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	0.0	10.9
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	0.0	10.9

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年11月30日)での決議状況 (取得期間平成24年12月3日～平成25年5月31日)	1,000,000	350,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	744,000	229,942,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	256,000	120,058,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	25.6	34.3
当期間における取得自己株式	256,000	80,240,000
提出日現在の未行使割合(%)	0.0	11.4

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成25年4月23日)での決議状況 (取得期間平成25年4月24日～平成25年10月31日)	1,000,000	400,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額	1,000,000	400,000,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	483,000	150,948,000
提出日現在の未行使割合(%)	51.7	62.3

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	39,756	12,304,972
当期間における取得自己株式	4,018	1,302,329

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月15日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式	2,000,000	654,160,000		
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の買増請求による売渡し)	3,365	1,107,035	1,200	392,220
保有自己株式数	4,303,848		5,045,666	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月15日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、活動領域の中で常に企業体質の強化を図り収益力の向上に努めてまいりましたが、その利益の配分は株主各位への利益還元としての配当の継続と自己株式取得及び自己株式消却により行っており、さらに今後も継続してまいります。また、将来の事業展開のための内部留保金の充実を図ってまいります。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、長期的な安定配当の基本方針のもと、1株当たり3.75円とし、中間配当金(3.75円)と合わせて7.50円としております。内部留保金につきましては、技術・商品の開発、人材育成、新規設備及び物流合理化への投資、並びに相乗効果が期待できる企業買収や事業の譲受けへの投資等を行っていく方針であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年11月2日 取締役会決議	389	3.75
平成25年6月27日 定時株主総会決議	385	3.75

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	415	394	395	343	335
最低(円)	233	320	221	255	288

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年 10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	3月
最高(円)	329	326	315	311	317	327
最低(円)	303	294	299	305	302	309

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
				他の会社の代表者である時の会社名			
取締役会長 代表取締役		岡 本 二 郎	昭和20年6月19日生	昭和44年11月 昭和51年5月 昭和51年6月 昭和54年6月 昭和60年6月 昭和62年6月 平成8年6月 平成17年6月 平成23年6月	当社入社 資材部長 取締役就任 常務取締役就任 専務取締役就任 代表取締役就任 取締役副社長就任 取締役社長就任 取締役会長就任(現)	(注2)	1,289
取締役社長 代表取締役		岡 本 良 幸	昭和24年10月23日生	昭和50年7月 昭和60年4月 昭和60年6月 平成元年6月 平成15年6月 平成17年6月 平成19年6月 平成21年6月 平成23年6月	当社入社 海外事業部貿易一部長兼貿易二部 長 取締役就任 常務取締役就任 専務取締役就任 資材部、茨城工場管掌 代表取締役副社長就任 静岡工場、福島工場管掌 取締役社長就任(現)	(注2)	972
専務取締役	手袋・メ ディカル 部、シュー ズ製 品部、総務 部、人事部 、大阪支 店、名古屋 営業所管掌	下 村 洋 喜	昭和23年12月4日生	昭和46年6月 平成12年2月 平成13年6月 平成19年4月 平成20年12月 平成21年2月 平成21年6月 平成23年6月 平成25年6月	当社入社 人事部長 取締役就任 シューズ製品部担当 アウトドア用品部(現産業用品部) 担当 大阪支店長、名古屋営業所担当 常務取締役就任 専務取締役就任(現) シューズ製品部、総務部、人事 部、大阪支店、名古屋営業所管掌 (現) 内部統制企画室、安全衛生環境管 理室管掌 手袋・メディカル部管掌(現) 世界長ユニオン(株)取締役会長、 シューテックオカモト(株)取締役社 長	(注2)	26
常務取締役	医療生活用 品部、食品 衛生用品 部、情報シ ステム室、 物流担当	竹 内 誠 二	昭和26年5月17日生	昭和50年4月 平成14年5月 平成17年4月 平成17年6月 平成21年6月 平成23年6月	(株)富士銀行(現(株)みずほ銀行)入行 同社八王子支店長 当社総務部、経営管理室統括マ ネージャー 取締役就任 情報システム室担当(現) 常務取締役就任(現) 食品衛生用品部、物流担当(現)、 メディカル製品部(現手袋・メ ディカル部)担当 健康生活用品部(現医療生活用品 部)担当(現)	(注2)	16
常務取締役	海外部、車 輛資材部担 当	田 村 俊 夫	昭和28年9月9日生	昭和52年6月 平成14年6月 平成19年6月 平成23年6月 平成24年7月	当社入社 海外部統括マネージャー 取締役海外部長就任 常務取締役就任(現) 海外部担当(現) 車輛資材部担当(現) 岡本(香港)有限公司取締役社 長、Okamoto U.S.A., Inc. 取締役 社長	(注2)	16
常務取締役	汎用プラス チック製品 部、機能プ ラスチック 製品部、農 業資材部担 当	矢 口 昭 史	昭和28年4月29日生	昭和53年6月 平成19年7月 平成20年6月 平成22年7月 平成25年6月	当社入社 プラスチック製品部長 取締役プラスチック製品部長 オカモト化成(株)取締役社長 常務取締役就任(現) 汎用プラスチック製品部、機能プ ラスチック製品部、農業資材部担 当(現)	(注2)	9
取締役	建装部長、 車輛資材部 長、粘着製 品部長、産 業用品担当	増 田 富 美 雄	昭和29年3月21日生	昭和53年6月 平成19年7月 平成20年1月 平成21年6月 平成21年8月 平成22年10月 平成24年2月 平成25年6月	当社入社 建装部長(現) 産業製品部(現産業用品部)長 取締役開発室、ISO担当就任 アウトドア用品部(現産業用品部) 長 産業用品部長 車輛資材部長(現) 粘着製品部長、産業用品部担当 (現)	(注2)	27

役名	職名	氏名	生年月日	略歴 他の会社の代表者である時の会社名		任期	所有株式数 (千株)
取締役	静岡工場長	池田 惠一	昭和30年9月1日生	昭和54年6月 平成19年7月 平成21年6月	当社入社 静岡工場長代理 取締役静岡工場長就任(現)	(注2)	6
取締役	茨城工場長	池田 佳司	昭和31年9月30日生	昭和55年6月 平成19年7月 平成21年6月	当社入社 茨城工場長(現) 取締役就任(現)	(注2)	9
取締役	医療生活用 品部長	齋藤 慎也	昭和28年7月24日生	昭和53年6月 平成14年6月 平成19年7月 平成22年8月 平成23年6月	当社入社 医療家庭用品部(現医療生活用品 部)統括マネージャー メデイカル製品部長 手袋・メデイカル部長 取締役健康生活用品部(現医療生 活用品部)長就任(現)	(注2)	10
取締役	食品衛生用 品部長	加藤 哲司	昭和29年11月28日生	昭和52年4月 平成9年7月 平成16年4月 平成21年2月 平成23年6月	理研ビニル工業(株)(現リケンテ クス(株))入社 当社入社 手袋・食品衛生用品部(現食品衛 生用品部)統括マネージャー 食品衛生用品部長(現) 取締役就任(現)	(注2)	7
取締役	経理部長	高島 寛	昭和32年12月25日生	昭和55年6月 平成14年6月 平成21年7月 平成23年6月	当社入社 経理部統括マネージャー 経理部長(現) 取締役就任(現)	(注2)	6
取締役	機能プラス チック製品 部長	本川 勉	昭和33年8月14日生	昭和56年6月 平成20年7月 平成25年4月 平成25年6月	当社入社 プラスチック製品部長 機能プラスチック製品部長(現) 取締役就任(現)	(注2)	2
監査役 (常勤)		久保田 榮	昭和24年1月31日生	昭和47年6月 平成10年7月 平成13年6月 平成19年6月 平成23年6月 平成24年6月	当社入社 経理部長 取締役経理部長 常務取締役経理部担当 顧問 監査役就任(現)	(注3)	21
監査役 (常勤)		後藤 守康	昭和27年1月20日生	昭和49年4月 平成13年11月 平成17年3月 平成18年5月 平成24年6月	当社入社 経理部経理課長 イチジク製薬(株)出向 イチジク製薬(株)取締役 監査役就任(現)	(注3)	6
監査役		小川 明	昭和36年8月31日生	平成5年3月 平成6年7月 平成11年4月 平成16年6月	公認会計士登録 新橋監査法人入所 同法人代表社員就任(現) 監査役就任(現)	(注3)	9
監査役		深澤 佳己	昭和42年11月7日生	平成8年3月 平成8年4月 平成16年6月	司法修習終了 東京弁護士会に弁護士登録 深澤法律事務所入所(現) 監査役就任(現)	(注3)	7
計							2,447

- (注) 1 監査役小川明及び深澤佳己は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」であります。
- 2 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 取締役会長岡本二郎は、取締役社長岡本良幸の兄であります。
- 5 取締役池田佳司は、取締役池田惠一の弟であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は、企業理念の実現を通じて企業価値を向上させ、株主のみなさまの共同の利益を長期的に増大し、株主のみなさまに当社株式を長期にわたり、安心して保有していただけることを目指しております。また、コーポレート・ガバナンス充実の要諦は、経営を委託された取締役が企業理念に基づき経営の執行者としての役割と経営の最高執行者の監督役割を峻別し、機動性と柔軟性を高めつつ、最善の意思決定を行うことで経営の公正性を確保することにあります。

このような考え方に沿って、監査役会設置会社として法令の範囲内で、取締役による経営の的確な意思決定と迅速な業務執行を行う一方、機能の分離に努めると同時に、取締役会の実効性を高めるべく、監査役機能を有効に活用して、適正な監督及び監視を可能とする監査体制を強化するために、次のような企業統治の体制を採用しております。

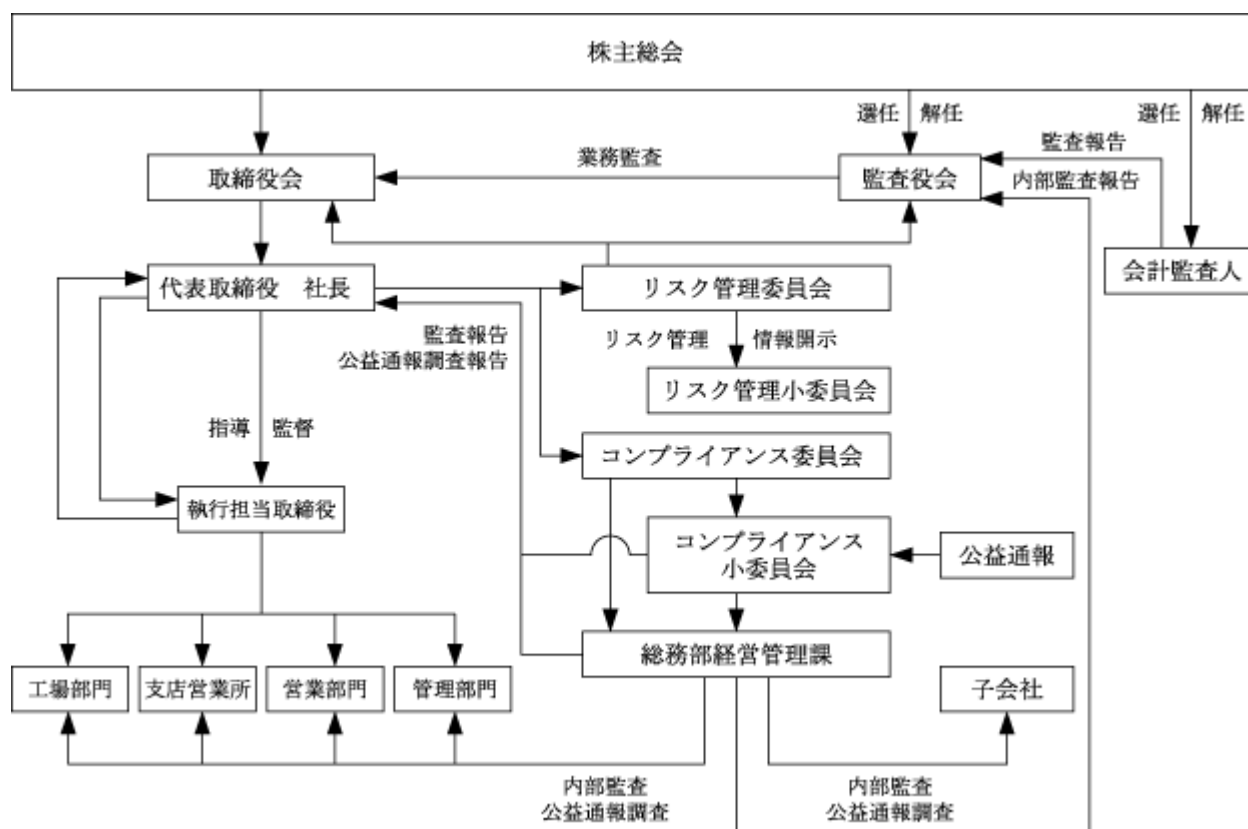
取締役会は、13名で構成され毎月開催して、重要事項の審議及び決議と当社グループの経営方針を決定するとともに、代表取締役以下の業務執行を厳正に管理・監督しております。定例の取締役会には監査役も出席し、法令又は定款に規定する事項の決議及び業務の執行状況等経営上の重要事項につき、監査役にも意見を求め客観的な判断のもと審議・決議を行っております。また、必要に応じて臨時の取締役会を開催し、機動的な経営の実現を目指しております。

監査役会は、2名の常勤監査役と2名の社外監査役の4名で構成され、監査方針及び監査計画に基づき、取締役会その他の重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査するとともに、毎月監査役会を開催し、法令並びに株主利益を侵害する事実の有無について監査を行っております。また、会計監査人と監査情報の交換を行うとともに、総務部経営管理課とも緊密に連携して監査結果や運営状況について報告を受けております。

当社は、会計監査人について新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し、連結財務諸表及び個別財務諸表の双方につき会計監査を受けるとともに、監査役並びに総務部経営管理課とも連携して適正性を確保しております。

内部監査は、総務部経営管理課を設置し、会計並びに事業のリスク等日常業務全般について内部監査を定期的に行っており、監査役とも連携して監視機能の強化を図っております。

企業統治の概要図



□ 内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において業務を適正に且つ効率的に運営していくことを確保する体制について、内部統制システムに係る基本方針として定めております。

）取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

a 当社は、コンプライアンス基本規程を設け、以下の内容を定めております。

当社の役員・使用人は、法令を誠実に遵守することはもとより企業倫理を十分に認識し、社会人としての良識と責任を持って業務を遂行することが求められております。このような認識に基づき当社の企業理念体系(企業使命・経営理念・行動基準)においてコンプライアンスを経営の基本方針としております。

b 当社の役員は、この実践のため企業理念体系に基づき当社グループにおける企業倫理の遵守及び浸透を率先垂範して行います。

c 社長をコンプライアンス統括責任者とするコンプライアンス委員会を設置し、弁護士・公認会計士等の外部有識者、管理部門担当役員等をメンバーにして当社並びにグループ全体のコンプライアンス体制の整備並びに問題点の把握に努め、また担当のセクションによる教育・啓蒙に努めております。

d 当社グループは、内部通報者制度(オカモト・ホットライン)を開設し、法令遵守上疑義がある行為が行われていることを発見したときは通報しなければならないと定めております。通報内容への対応については通報内容を検討し、総務部経営管理課が内部監査を実施し、その対処を行います。

また、今後についても継続的にコンプライアンス体制の改善案を検討していくなど、その充実に努めていきます。

）取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

a 取締役は、その職務の執行に係る文書(電磁的記録を含む)その他の重要な情報を情報管理規程・パソコン管理規程・内部者取引管理規程に基づき適切に管理し保管しております。

b 会社としての重要書類は原則総務部にて管理保管し、機会あるごとに教育・啓蒙を行っております。なお、電磁的記録は、パソコン管理規程に基づき情報システム室が管理しております。

）損失の危機の管理に関する規程その他の体制

- a 当社グループのリスクマネジメントは、外部有識者の意見を取り入れてコンプライアンス委員会でリスクの発生防止と発生した場合の損失の極小化を図る体制としております。また、企業活動の持続的発展を実現することを脅かすあらゆるリスクに対処すべく、機動的に開催されるリスク管理委員会でトータルリスクマネジメント体制を構築しております。
- b 部門別リスクマネジメントの取組みは、リスク管理委員会のもと工場部門・営業部門・管理部門ごとに担当役員の指示で専門的な立場から、各種のリスクの評価・管理を行っております。なお、環境リスクについては、ISO14001取得時に創設した環境管理委員会が横断的・継続的に評価・管理しております。
- c 地震等による自然災害がもたらす津波・火災・水害等による操業停止のリスク、基幹ITシステムが正常に機能しないリスクを軽減する態勢を整備しております。また、リスクの高い地区、業務には保険契約の見直しをその都度実施しております。

）取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- a 当社の事業部門は、需要家向け製品の産業用製品と消費者向け製品の生活用品の2分野に分かれております。その2分野の互換性が薄いため、部門毎に販売計画、年度単位の部門方針をたて、その業績を全社統一的な指標により管理するとともに、課長以上が出席する「月曜会」で毎月1回各部門の業績を報告し合い、全社的に各部門の業績、状況を把握できる制度を整えているとともに、効率の良い業務執行を行うよう努めております。
- b 代表取締役と役付取締役で構成する常務会を定例のほか機動的に開催し、前項の監視機能を持つとともに当社事業の対処方針を効率よく決定できる体制にあります。

）当該株式会社並びにその親会社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社に親会社はなく、関係会社として国内完全子会社7社と海外子会社10社を有しています。重要な取締役が当社取締役が兼務することで、親会社の業務運営を子会社の運営に直結させ、リスクも一体管理しております。

- a 公益通報者保護法施行に伴い、内部通報の仕組みとして「オカモト・ホットライン」をグループ共有で当社に創設して、法令遵守の規範を定めております。
- b 当社監査役が、当社グループの連結経営に対応した全体の監視・監査を各社監査役と当社総務部経営管理課と連携して実践していく体制を整備しております。

）監査役を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役が必要とした場合、監査役を補助する使用人を置くものとします。なお、使用人の任命、異動、評価、懲戒は、監査役会の同意を得たうえで決定し、当該使用人の取締役からの独立性を確保します。

）取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- a 代表取締役及び業務執行を担当する取締役は、取締役会において最低3ヶ月に1回以上業務の執行状況を報告します。
- b 監査役は、取締役会、月曜会に出席すると共にコンプライアンス委員会・小委員会にも出席し、当社並びにグループの業績・信用に影響を及ぼすものはその都度把握できる体制を敷くなど、監査役への情報提供を強化しております。

- ）その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- a 当社監査役の半数は独立社外監査役とし、対外的な透明性を確保すると共に弁護士・公認会計士としての外部有識者の立場から監査・アドバイスを実践しております。
 - b 当社の内部監査部門である総務部経営管理課が、法令や定款、社内規程等への適合性等の観点から、グループ会社の監査を実施していくほか、定例の監査役会に内部監査報告を行い、監査指示を受けた場合にはさらに追加して内部監査を行う仕組みとしております。

八 リスク管理体制の整備状況

当社は、役付の取締役以上で構成されるリスク管理委員会を設置し、グループ全体のリスク管理に対する方針の策定等を行い、リスク管理体制の推進を図っております。また、リスクの有無やその評価を行い、必要に応じて関係者を招集しリスク管理小委員会を開催して、その解決及び予防に努めております。

内部監査及び監査役監査

当社の内部監査及び監査役監査の組織は、4名の監査役のうち、半数以上となる2名は社外監査役で構成されております。監査役会は、監査の方針及び計画、監査役間の職務分担等の決定を行い、また取締役会その他の重要な会議に出席し、取締役の職務を監査すると共に、業務の状況を聴取して、毎月監査役会を開き適正な監査を行っております。監査役は、会計監査人と相互の監査方針、監査項目及び監査の着眼点に関する意見交換を通じて、効率的な監査を目指しており、各事業所間並びに関係会社の監査の立会いをはじめ、適宜監査情報の交換会を設けて、相互の連携を深め機動的な監査に取り組んでおります。また、監査役は内部監査部門である総務部経営管理課より適宜内部統制に関する監査計画及び実施状況について報告を受けると共に、各事業所並びに関係会社における重要な監査には同行し、意見交換や情報の共有化を図っております。

なお、社外監査役小川明は、公認会計士の資格を有しております。

社外取締役及び社外監査役

）社外取締役、社外監査役の員数、提出会社との人的関係、資本的関係又は取引関係及びその他の利害関係

当社は社外監査役を2名選任しております。いずれの社外監査役も当社との間に特別な利害関係は無く、また責任限定契約について該当事項はありません。

）社外取締役、社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針の内容等
社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針を定めてはおりませんが、幅広い知識や専門的な知見に基づく監査機能を期待し、経営の監視・監督に資する人材を選任しております。さらに、一般株主と利益相反を生じさせない事も基本的な考えとしております。

）社外取締役、社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

社外監査役小川明は、公認会計士資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであり、社外監査役深沢佳己は弁護士資格を有しており、法務全般に関する相当程度の知見を有するものであります。これら両氏の幅広い知識や専門的な知見から客観的かつ適切に機能しております。

なお、当社は社外取締役を選任していません。その理由として社外監査役2名を含む監査役会は毎月開催される取締役会に出席し、当社の経営状況を把握しております。さらに経営の公正性及び透明性を高め効率的な経営システムを確立し、経営の監視機能の面では十分に機能している体制が整っていると考えております。

）社外取締役、社外監査役による監査又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

「内部監査及び監査役監査」に記載のとおり、取締役会、監査役会、総務部経営管理課等において適宜報告及び意見交換がなされております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	246	246				14
監査役 (社外監査役を除く。)	20	20				2
社外役員	6	6				2

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の 員数(名)	内容
90	8	営業部長、工場長等としての給与

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員報酬等の額の決定に関する基本方針として当社取締役の報酬は、各人の職責等に応じ、功績等会社への貢献度、社会的地位、一般的な水準、就任年数等を考慮の上、決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 62銘柄
貸借対照表計上額の合計額 13,338百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
丸紅(株)	4,412,000	2,633	取引関係等の円滑化のため
テイ・エステック(株)	1,176,000	1,908	同上
(株)みずほフィナンシャル グループ	11,278,860	1,522	同上
NK S Jホールディングス(株)	419,750	776	同上
(株)チヨダ	400,400	664	同上
東京建物(株)	1,084,278	363	同上
日本ゼオン(株)	300,000	230	同上
理研コランダム(株)	1,132,760	174	同上
大日精化工業(株)	320,000	124	同上

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
住友化学(株)	284,603	100	取引関係等の円滑化のため
ヒューリック(株)	100,000	99	同上
協和発酵キリン(株)	104,446	96	同上
日本カーリット(株)	210,000	87	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	206,500	85	同上
昭栄(株)	228,532	77	同上
積水化学工業(株)	100,000	71	同上
西松建設(株)	353,000	68	同上
稲畑産業(株)	108,000	61	同上
(株)カネカ	100,000	49	同上
不二ラテックス(株)	268,000	39	同上
大成建設(株)	150,000	32	同上
本田技研工業(株)	9,664	30	同上
(株)タチエス	13,000	21	同上
(株)セブン&アイ・ホールディングス	8,371	20	同上
(株)サンゲツ	9,100	19	同上
常盤興産(株)	165,000	16	同上
中央物産(株)	35,816	14	同上
アークランドサカモト(株)	9,300	14	同上
MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	8,241	14	同上
オリンパス(株)	10,000	13	同上

(当事業年度)
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テイ・エステック(株)	1,176,000	3,148	取引関係等の円滑化のため
丸紅(株)	4,412,000	3,101	同上
(株)みずほフィナンシャル グループ	11,278,860	2,244	同上
(株)チヨダ	400,400	1,002	同上
東京建物(株)	1,084,278	714	同上
N K S Jホールディングス(株)	319,750	627	同上
ヒューリック(株)	528,532	408	同上
ミツウロコグループホールディ ングス(株)	620,000	305	同上
日本ゼオン(株)	300,000	292	同上
理研コランダム(株)	1,132,760	195	同上
大日精化工業(株)	320,000	140	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・ グループ	206,500	115	同上
日本カーリット(株)	210,000	108	同上
積水化学工業(株)	100,000	103	同上
住友化学(株)	284,603	83	同上
稲畑産業(株)	108,000	75	同上
(株)カネカ	100,000	54	同上
西松建設(株)	353,000	54	同上
本田技研工業(株)	11,998	42	同上
不二ラテックス(株)	268,000	40	同上
大成建設(株)	150,000	38	同上
常盤興産(株)	165,000	31	同上
(株)セブン&アイ・ホールディ ングス	9,463	29	同上
(株)サンゲツ	9,100	23	同上
オリンパス(株)	10,000	22	同上
(株)タチエス	13,000	21	同上
中央物産(株)	40,083	19	同上
ニホンフラッシュ(株)	5,000	18	同上
M S & A Dインシュアランスグ ループホールディングス(株)	8,241	17	同上
イオン(株)	13,775	16	同上

八 保有目的が純投資目的である投資株式
 該当事項はありません。

二 当事業年度中に、投資株式の保有目的を変更したもの
 該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく会計監査に新日本有限責任監査法人を起用しております。当社と同監査法人及び監査に従事する同監査法人の業務執行社員との間には、特別な利害関係はありません。

また、会計監査については社内の会計システム並びにその他資料を含め会計監査に必要な監査環境を提供しております。

監査役は会計監査人の往査に立会い、また監査講評会に出席し会計監査人から報告を受けるなど連携を図り、監査の実効性が上がるよう努めております。

当社の業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人等及び継続監査年数については、次のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人等名
指定有限責任社員 業務執行社員 栗原 学	新日本有限責任監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 北澄 和也	新日本有限責任監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 今西 恭子	新日本有限責任監査法人

- (注) 1 継続監査年数については、7年以内であるため記載は省略しております。
 2 当社の監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他4名であります。
 その他は、公認会計士試験合格者等であります。

取締役の定数

当社の取締役は18名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、累積投票によらない旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

イ 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。これは、機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

ロ 剰余金の配当の決定機関

当社は、剰余金の配当に関して会社法第454条第5項に掲げる事項について、取締役会の決議によって定めることとする旨を定款で定めております。これは、剰余金の配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役等の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠った事による取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することが出来る旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	39		39	
連結子会社				
計	39		39	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)及び事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

また、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が主催するセミナーへ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,632	9,219
受取手形及び売掛金	5 21,682	5 21,103
商品及び製品	6,515	7,052
仕掛品	1,317	1,530
原材料及び貯蔵品	1,549	1,744
繰延税金資産	469	625
その他	1,379	1,339
貸倒引当金	22	26
流動資産合計	42,523	42,588
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,378	5,375
機械装置及び運搬具（純額）	5,021	5,205
土地	3,325	3,315
建設仮勘定	818	140
その他（純額）	334	330
有形固定資産合計	1 14,877	1 14,366
無形固定資産	273	149
投資その他の資産		
投資有価証券	2 10,649	2 14,776
繰延税金資産	34	36
その他	2 833	2 1,156
貸倒引当金	23	7
投資損失引当金	195	195
投資その他の資産合計	11,298	15,767
固定資産合計	26,448	30,282
資産合計	68,972	72,871

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5 16,723	5 16,554
1年内償還予定の社債	1,500	-
短期借入金	1,027	2,044
1年内返済予定の長期借入金	1,000	-
未払法人税等	756	1,273
賞与引当金	753	774
その他	3,227	2,570
流動負債合計	24,988	23,217
固定負債		
長期借入金	-	1,000
繰延税金負債	734	1,838
退職給付引当金	3,593	3,922
その他	1,141	1,078
固定負債合計	5,469	7,838
負債合計	30,457	31,056
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,047	13,047
資本剰余金	359	359
利益剰余金	23,690	24,461
自己株式	1,436	1,495
株主資本合計	35,661	36,373
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,589	5,873
繰延ヘッジ損益	10	20
為替換算調整勘定	746	451
その他の包括利益累計額合計	2,853	5,442
純資産合計	38,514	41,815
負債純資産合計	68,972	72,871

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高	68,762	70,008
売上原価	1, 2 53,354	1, 2 54,721
売上総利益	15,408	15,287
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	3,097	3,029
その他の販売費	2,917	2,662
給料及び賞与	3,110	3,076
賞与引当金繰入額	292	304
退職給付引当金繰入額	173	150
その他の一般管理費	3,326	3,143
販売費及び一般管理費合計	2 12,917	2 12,367
営業利益	2,490	2,920
営業外収益		
受取利息	11	27
受取配当金	312	309
不動産賃貸料	465	426
為替差益	-	341
持分法による投資利益	7	2
その他	144	118
営業外収益合計	941	1,226
営業外費用		
支払利息	67	43
不動産賃貸費用	165	134
為替差損	124	-
その他	127	77
営業外費用合計	484	254
経常利益	2,947	3,892
特別利益		
固定資産売却益	3 4	3 7
投資有価証券売却益	46	169
受取保険金	51	47
特別利益合計	102	224
特別損失		
固定資産除却損	4 18	4 9
投資有価証券売却損	26	5
投資有価証券評価損	10	-
減損損失	5 26	5 196
投資損失引当金繰入額	195	-
災害による損失	6 101	6 13
環境対策費	7 44	-
特別損失合計	422	224
税金等調整前当期純利益	2,627	3,891

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
法人税、住民税及び事業税	1,048	1,919
過年度法人税等	-	71
法人税等調整額	95	306
法人税等合計	<u>1,144</u>	<u>1,685</u>
少数株主損益調整前当期純利益	<u>1,483</u>	<u>2,206</u>
当期純利益	<u>1,483</u>	<u>2,206</u>

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,483	2,206
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	379	2,272
持分法適用会社に対する持分相当額	5	10
繰延ヘッジ損益	0	10
為替換算調整勘定	132	295
その他の包括利益合計	1,253	1,259
包括利益	1,736	4,796
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,736	4,796
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	13,047	13,047
当期末残高	13,047	13,047
資本剰余金		
当期首残高	422	359
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
自己株式の消却	1,012	654
利益剰余金から資本剰余金への振替	950	654
当期変動額合計	62	-
当期末残高	359	359
利益剰余金		
当期首残高	23,961	23,690
当期変動額		
当期純利益	1,483	2,206
剰余金の配当	803	782
利益剰余金から資本剰余金への振替	950	654
当期変動額合計	270	770
当期末残高	23,690	24,461
自己株式		
当期首残高	1,424	1,436
当期変動額		
自己株式の取得	1,024	713
自己株式の処分	0	1
自己株式の消却	1,012	654
当期変動額合計	11	58
当期末残高	1,436	1,495
株主資本合計		
当期首残高	36,006	35,661
当期変動額		
当期純利益	1,483	2,206
剰余金の配当	803	782
自己株式の取得	1,024	713
自己株式の処分	0	1
自己株式の消却	-	-
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
当期変動額合計	345	712
当期末残高	35,661	36,373

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	3,204	3,589
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	385	2,283
当期変動額合計	385	2,283
当期末残高	3,589	5,873
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	10	10
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	10
当期変動額合計	0	10
当期末残高	10	20
為替換算調整勘定		
当期首残高	614	746
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	132	295
当期変動額合計	132	295
当期末残高	746	451
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,600	2,853
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	253	2,589
当期変動額合計	253	2,589
当期末残高	2,853	5,442
純資産合計		
当期首残高	38,606	38,514
当期変動額		
当期純利益	1,483	2,206
剰余金の配当	803	782
自己株式の取得	1,024	713
自己株式の処分	0	1
自己株式の消却	-	-
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	253	2,589
当期変動額合計	91	3,301
当期末残高	38,514	41,815

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,627	3,891
減価償却費	2,654	2,347
減損損失	26	196
持分法による投資損益（は益）	7	2
賞与引当金の増減額（は減少）	14	20
貸倒引当金の増減額（は減少）	1	12
退職給付引当金の増減額（は減少）	378	327
投資損失引当金の増減額（は減少）	195	-
受取利息及び受取配当金	323	336
支払利息	67	43
為替差損益（は益）	7	16
投資有価証券売却損益（は益）	20	164
投資有価証券評価損	10	-
固定資産売却損益（は益）	4	7
固定資産除却損	18	9
売上債権の増減額（は増加）	1,134	681
たな卸資産の増減額（は増加）	1,000	854
その他の資産の増減額（は増加）	317	168
仕入債務の増減額（は減少）	1,196	397
その他の負債の増減額（は減少）	136	404
その他	26	5
小計	4,225	5,494
利息及び配当金の受取額	319	333
利息の支払額	67	44
法人税等の支払額	734	1,510
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,742	4,272
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	450	1,450
定期預金の払戻による収入	450	450
有形及び無形固定資産の取得による支出	2,539	1,997
有形及び無形固定資産の売却による収入	525	58
投資有価証券の取得による支出	14	689
投資有価証券の売却による収入	203	292
その他	163	363
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,988	3,699
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	28	1,017
長期借入れによる収入	-	1,000
長期借入金の返済による支出	-	1,000
社債の償還による支出	-	1,500
配当金の支払額	803	783
自己株式の取得による支出	1,024	713
その他	120	88
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,976	2,067
現金及び現金同等物に係る換算差額	49	81
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	271	1,412
現金及び現金同等物の期首残高	9,453	9,182
現金及び現金同等物の期末残高	1 9,182	1 7,769

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(イ)連結子会社の数 11社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(ロ)主要な非連結子会社名

ホンゴウサービス(株)

Apollotex Co.,Ltd.

Okamoto Rubber Products Co.,Ltd.

Okamoto Vietnam Co.,Ltd.

岡本貿易(深セン)有限公司

Vina Okamoto Co.,Ltd.

(ハ)非連結子会社について連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(イ)持分法適用の非連結子会社数 0社

(ロ)持分法適用の関連会社数 1社

会社名

森川産業(株)

(ハ)持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

ホンゴウサービス(株)

Apollotex Co.,Ltd.

Okamoto Rubber Products Co.,Ltd.

Okamoto Vietnam Co.,Ltd.

岡本貿易(深セン)有限公司

Vina Okamoto Co.,Ltd.

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、岡本(香港)有限公司、Okamoto U.S.A.,Inc.、Siam Okamoto Co.,Ltd.、Okamoto North America,Inc.、Okamoto Sandusky Manufacturing,LLCの決算日は12月31日であります。5社とも連結決算日との差異は3ヶ月以内であるため、事業年度の財務諸表を基礎とし、連結決算日との間に生じた重要な取引は、連結上必要な調整を行っております。

なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ)有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(ロ)たな卸資産

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ)有形固定資産(リース資産を除く)

親会社及び国内連結子会社は主として定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)は定額法)を採用し、在外連結子会社は主として定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 5～12年

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当社グループは、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この減価償却方法の変更による影響額は軽微であります。

(ロ)無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(ハ)リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(ニ)長期前払費用

定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ)貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ)賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えて、過去の実績に基づき支給見込額を計上しております。

(八)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、過去勤務債務については、その発生額を一括償却しております。数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により、翌連結会計年度から費用処理しております。

(二)投資損失引当金

関係会社に対する投資による損失に備えるため、投資先の財政状態等を勘案し、必要額を引当計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。為替予約が付されている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

為替予約取引

金利スワップ取引

(ヘッジ対象)

外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

借入金の利息

ヘッジ方針

主として親会社は、基本的に通常の営業取引の範囲内で、外貨建金銭債権債務に係る為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を行っております。また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始以降、継続して相場変動を完全に相殺すると想定することができるため、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であることを確認することにより、有効性の判定に代えております。

金利スワップについては、特例処理によっているため、有効性の評価を省略しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものであります。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定であります。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(追加情報)

(不適切な会計処理について)

当社静岡工場において、不適切な会計処理が判明したことから、外部の専門家で構成される第三者委員会を設置し調査を進めてまいりました。

その結果、過去に行われた取引の一部に関して不適切な会計処理が確認されました。

(訂正報告書の提出について)

当社の不適切な会計処理について、当社は金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき過去に提出いたしました有価証券報告書に記載されている連結財務諸表及び財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、有価証券報告書の訂正報告書を提出することを決定しました。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	46,813百万円	48,968百万円

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	932百万円	1,388百万円
その他(出資金)	19百万円	19百万円

3 偶発債務

下記の関係会社の金融機関からの借入金に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
Vina Okamoto Co.,Ltd.	104百万円 (1,275千米ドル)	91百万円 (975千米ドル)

4 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	211百万円	223百万円

5 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	906百万円	1,033百万円
支払手形	331百万円	310百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上原価	315百万円	297百万円

- 2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	1,084百万円	854百万円

- 3 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具		0百万円
その他		0
土地	4百万円	6
計	4百万円	7百万円

- 4 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	3百万円	6百万円
機械装置及び運搬具	14	2
その他	0	0
計	18百万円	9百万円

5 減損損失

当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

用途	種類	場所
賃貸不動産	土地	東京都台東区

(経緯)

当社グループは、減損対象資産に関しては売却の決定及び購入者との契約を締結した時点において、使用範囲又は方法について回収可能価額を著しく低下させる変化が生じたことを認識し、当該減少額を減損損失(26百万円)として特別損失に計上しております。

(グルーピングの方法)

当社グループは、主に継続的に収支の把握を行っている管理計算上の区分別(製品群別)に資産をグルーピングしております。ただし、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件毎に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

当該資産の回収可能価額は売却契約に基づく売却額を使用しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

用途	種類	場所
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、その他	茨城県龍ヶ崎市
事業用資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、その他	福島県いわき市

(経緯)

当社グループは、入浴剤事業およびブーツ事業の事業資産において収益性の低下が生じ、短期的な業績回復が見込まれないとの判断から「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当該各資産の帳簿価額を1円まで減額し、当該減少額を減損損失(196百万円)として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は、建物及び構築物101百万円、機械装置及び運搬具91百万円、その他3百万円です。

(グルーピングの方法)

当社グループは、主に継続的に収支の把握を行っている管理計算上の区分別(製品群別)に資産をグルーピングしております。ただし、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件毎に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位としてグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

当該資産グループの建物及び構築物、機械装置及び運搬具、その他回収可能価額は使用価値により算定しております。

6 災害による損失

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

タイ王国洪水に伴う損失86百万円及び東日本大震災に伴う損失14百万円です。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

タイ王国洪水に伴う損失13百万円です。

7 環境対策費

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

工場跡地の産業廃棄物処理に要する費用を環境対策費として計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	174百万円	3,682百万円
組替調整額	9 "	164 "
税効果調整前	164百万円	3,517百万円
税効果額	215 "	1,245 "
その他有価証券評価差額金	379百万円	2,272百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	5百万円	10百万円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	0百万円	16百万円
税効果額	0 "	6 "
繰延ヘッジ損益	0百万円	10百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	132百万円	295百万円
その他の包括利益合計	253百万円	2,589百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	111,996,839		3,000,000	108,996,839

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却による減少 3,000,000株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,877,979	3,276,720	3,000,840	4,153,859

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

主に市場買付による増加 3,260,000株

単元未満株式の買取りによる増加 16,108株

持分法適用会社を取得した

自己株式(当社株式)の当社帰属分 612株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却による減少 3,000,000株

単元未満株式の売渡による減少 840株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	405	3.75	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年11月4日 取締役会	普通株式	398	3.75	平成23年9月30日	平成23年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	393	3.75	平成24年3月31日	平成24年6月29日

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	108,996,839		2,000,000	106,996,839

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却による減少 2,000,000株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	4,153,859	2,290,390	2,003,365	4,440,884

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

主に市場買付による増加 2,250,000株

単元未満株式の買取りによる増加 39,756株

持分法適用会社が取得した

自己株式(当社株式)の当社帰属分 634株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却による減少 2,000,000株

単元未満株式の売渡による減少 3,365株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	393	3.75	平成24年3月31日	平成24年6月29日
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	389	3.75	平成24年9月30日	平成24年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	385	3.75	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	9,632百万円	9,219百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	450	1,450
現金及び現金同等物	9,182百万円	7,769百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・無形固定資産

主として、親会社における基幹業務システム(ソフトウェア)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、親会社における事務用機器(工具、器具及び備品)であります。

・無形固定資産

主として、親会社における人事情報管理システム(ソフトウェア)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
 前連結会計年度(平成24年3月31日)

	その他 (工具、器具及び備品等)
取得価額相当額	115百万円
減価償却累計額相当額	107
減損損失累計額相当額	
期末残高相当額	8百万円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	その他 (工具、器具及び備品等)
取得価額相当額	59百万円
減価償却累計額相当額	59
減損損失累計額相当額	
期末残高相当額	

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	8百万円	
1年超		
合計	8百万円	

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額及び減価償却費相当額

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
支払リース料	17百万円	8百万円
リース資産減損勘定の取崩額		
減価償却費相当額	17百万円	8百万円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、必要な資金については主に銀行借入や社債発行により調達しております。デリバティブは、通貨関連では外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図り、また、金利関連では借入金利の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の与信状況を一定の間隔で把握する体制としております。また、海外取引において発生する外貨建営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用して一定の範囲内でヘッジしております。投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に取引上の関係を有する企業の株式であります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。また、その一部には、商品仕入に伴う外貨建営業債務があり、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用して一定の範囲内でヘッジしております。借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金(原則として5年以内)は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されており、このうち長期のものについては、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しています。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、為替予約取引については海外取引担当部門が、金利スワップ取引については財務担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。

なお、取引相手先は高格付けを有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	9,632	9,632	
(2) 受取手形及び売掛金	21,682	21,682	
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	9,561	9,561	
資産計	40,876	40,876	
支払手形及び買掛金	16,723	16,723	
負債計	16,723	16,723	
デリバティブ取引()	16	16	

() デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	9,219	9,219	
(2) 受取手形及び売掛金	21,103	21,103	
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	13,243	13,243	
資産計	43,565	43,565	
支払手形及び買掛金	16,554	16,554	
負債計	16,554	16,554	
デリバティブ取引()	32	32	

() デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。なお、その他有価証券の注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成24年3月31日	平成25年3月31日
非上場株式	1,087	1,533

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内
現金及び預金	450
受取手形及び売掛金	21,682
合計	22,132

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内
現金及び預金	1,450
受取手形及び売掛金	21,103
合計	22,553

(有価証券関係)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 満期保有目的の債券で時価のあるもの(平成24年3月31日)
 該当事項はありません。

2 その他有価証券(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	9,350	3,744	5,605
小計	9,350	3,744	5,605
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	211	277	66
小計	211	277	66
合計	9,561	4,022	5,539

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	203	46	26
合計	203	46	26

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 満期保有目的の債券で時価のあるもの(平成25年3月31日)
 該当事項はありません。

2 その他有価証券(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	13,184	4,125	9,059
小計	13,184	4,125	9,059
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	58	60	2
小計	58	60	2
合計	13,243	4,185	9,057

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	292	169	5
合計	292	169	5

[次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成24年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	300		16
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	608		(注) 2
	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	53		(注) 2
合計			961		16

(注) 1 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされた売掛金又は買掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金又は買掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	750		4
合計			750		4

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	317		32
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	1,256		(注) 2
	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	33		(注) 2
合計			1,606		32

(注) 1 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされた売掛金又は買掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金又は買掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	1,000	1,000	10
合計			1,000	1,000	10

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、ポイント制に基づく退職一時金制度と確定拠出年金制度を設けております。また、国内連結子会社は、退職一時金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
退職給付債務	3,832	4,170
未積立退職給付債務	3,832	4,170
未認識数理計算上の差異	239	247
連結貸借対照表計上額純額(+)	3,593	3,922
退職給付引当金	3,593	3,922

(注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
勤務費用	247	260
利息費用	58	60
数理計算上の差異の費用処理額	170	119
確定拠出年金拠出額	54	54
退職給付費用(+ + +)	531	495

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に含めて記載しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.7%	1.7%

(3) 数理計算上の差異の処理年数

5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

[次へ](#)

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

流動の部

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	282百万円	290百万円
賞与引当金に係る法定福利費	35	37
製品評価損	85	76
未実現たな卸資産売却益に係る調整額	20	39
未払法人事業税等	57	106
決算訂正による影響額	29	122
その他	9	11
小計	520百万円	684百万円
評価性引当金	44百万円	46百万円
計	475百万円	637百万円
(繰延税金負債)		
債権債務の相殺に伴う貸倒引当金調整額	0百万円	0百万円
繰延ヘッジ損益	6	12
計	6百万円	12百万円
繰延税金資産(流動)純額	468百万円	625百万円

固定の部

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(繰延税金資産)		
退職給付引当金	1,455百万円	1,567百万円
未払役員退職慰労金	87	81
減価償却費	64	51
貸倒引当金超過	2	5
有価証券評価損	28	28
減損損失	150	195
仕入債務	5	2
繰越欠損金	16	321
その他	114	106
小計	1,926百万円	2,359百万円
評価性引当金	294百万円	616百万円
計	1,632百万円	1,742百万円
(繰延税金負債)		
債権債務の相殺に伴う貸倒引当金調整額	0百万円	
固定資産圧縮積立金	213	187百万円
特別償却準備金	22	15
子会社取得に伴う土地評価差額金	140	140
その他有価証券評価差額金	1,955	3,200
その他	1	1
計	2,332百万円	3,544百万円
繰延税金資産(固定)純額	700百万円	1,801百万円

(注) 繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	469百万円	625百万円
固定資産 - 繰延税金資産	34百万円	36百万円
固定負債 - 繰延税金負債	734百万円	1,838百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.5%	37.8%
(調整)		
海外連結子会社の税率差異	0.5%	1.0%
住民税均等割等	0.9%	0.7%
交際費等永久に損金算入 されない項目	3.8%	1.5%
受取配当金等永久に益金算入 されない項目	2.3%	1.4%
評価性引当金増減	0.4%	4.5%
試験研究費特別控除	2.5%	1.6%
税率変更による期末繰延税金資産・ 負債の減額修正	8.0%	
その他	3.9%	2.9%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	43.5%	43.3%

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域及び海外において、保有資産の有効活用の一環として土地又は土地建物を賃貸しております。

これら賃貸等不動産に関する連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額			連結決算日における時価
	当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	2,632	537	2,094	6,603

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2 主な変動

減少は、不動産売却等 537百万円

3 時価の算定方法

不動産については、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

また、賃貸等不動産に関する平成24年3月期における損益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	賃貸収益	賃貸費用	差額	その他(売却損益等)
賃貸等不動産	465	165	300	26

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域及び海外において、保有資産の有効活用の一環として土地又は土地建物を賃貸しております。

これら賃貸等不動産に関する連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額			連結決算日における時価
	当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	2,094	132	1,961	5,620

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2 主な変動

減少は、不動産売却等100百万円及び事業用資産への振替32百万円であります。

3 時価の算定方法

不動産については、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

また、賃貸等不動産に関する平成25年3月期における損益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	賃貸収益	賃貸費用	差額	その他(売却損益等)
賃貸等不動産	426	134	292	6

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別に事業活動を展開しており、事業者向け製品の事業としての「産業用製品」と消費者向け製品の事業としての「生活用品」の2つの報告セグメントで構成されております。

「産業用製品」は主にプラスチック系樹脂を主原料とした製品群を加工事業者向けに販売している事業であり、「生活用品」は主に日用品や消耗財等を消費者向けに販売している事業であります。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額
	産業用製品	生活用品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	38,533	30,229	68,762	0	68,762		68,762
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	276	295	3,222	3,518	3,518	
計	38,552	30,505	69,058	3,223	72,281	3,518	68,762
セグメント利益	1,576	2,261	3,838	95	3,933	1,442	2,490
セグメント資産	26,699	22,403	49,103	1,559	50,662	18,309	68,972
その他の項目							
減価償却費	1,722	707	2,430	52	2,482	172	2,654
のれんの償却額	39		39		39		39
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	1,761	375	2,137	89	2,226	74	2,301
減損損失						26	26

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の物流事業等を含んでおります。

2 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 1,442百万円には、セグメント間取引消去13百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,456百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

(2) セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(3) セグメント資産の調整額18,309百万円には、セグメント間取引消去 332百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産18,641百万円が含まれております。全社資産は、主に親会社での余資運用資金(現金及び有価証券)、賃貸用不動産及び管理部門にかかる資産等であります。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額
	産業用製品	生活用品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	40,279	29,729	70,008	0	70,008		70,008
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25	280	306	3,189	3,495	3,495	
計	40,304	30,010	70,314	3,189	73,503	3,495	70,008
セグメント利益	1,888	2,440	4,329	100	4,429	1,509	2,920
セグメント資産	27,327	21,919	49,246	1,472	50,718	22,153	72,871
その他の項目							
減価償却費	1,515	614	2,130	51	2,181	165	2,347
のれんの償却額	2		2		2		2
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	1,325	455	1,780	9	1,790	48	1,839
減損損失		196	196		196		196

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の物流事業等を含んでおります。

2 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 1,509百万円には、セグメント間取引消去 9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,518百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。
- (2) セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- (3) セグメント資産の調整額22,153百万円には、セグメント間取引消去 308百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産22,462百万円が含まれております。全社資産は、主に親会社での余資運用資金(現金及び有価証券)、賃貸用不動産及び管理部門にかかる資産等であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	アジア	その他地域	合計
62,313	2,538	3,700	210	68,762

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の額が、連結貸借対照表の有形固定資産の90%超であるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	アジア	その他地域	合計
62,016	4,173	3,356	461	70,008

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の額が、連結貸借対照表の有形固定資産の90%超であるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	産業用製品	生活用品	計			
(のれん)						
当期償却額	39		39			39
当期末残高	2		2			2
(負ののれん)						
当期償却額						
当期末残高						

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	産業用製品	生活用品	計			
(のれん)						
当期償却額	2		2			2
当期末残高						
(負ののれん)						
当期償却額						
当期末残高						

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	森川産業㈱	東京都千代田区	109	卸売業	(所有) 直接18.17 間接 2.27 (被所有) 0.61	当社製品の販売 役員の兼任	当社医療・日用品関連製品の販売	2,827	売掛金	1,874

- (注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2 取引条件および取引条件の決定方針等
 当社製品の販売については、一般取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	森川産業㈱	東京都千代田区	109	卸売業	(所有) 直接18.17 間接 2.27 (被所有) 0.63	当社製品の販売 役員の兼任	当社医療・日用品関連製品の販売	2,341	売掛金	1,317

- (注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2 取引条件および取引条件の決定方針等
 当社製品の販売については、一般取引条件と同様に決定しております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	367.35円	407.74円

項目	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額	13.96円	21.29円
(算定上の基礎)		
連結損益計算書上の当期純利益(百万円)	1,483	2,206
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,483	2,206
普通株式の期中平均株式数(千株)	106,287	103,638
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	平成17年6月29日定時株主総会決議ストック・オプション(新株予約権1,876個) 普通株式1,876千株	

- (注) 1 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 2 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
オカモト(株)	第1回無担保普通社債 (適格機関投資家限定)	平成19年 9月20日	1,500 (1,500)		2.03	無担保社 債	平成24年 9月20日
合計			1,500 (1,500)				

(注) 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率(%)	返済期限
短期借入金	1,027	2,044	0.75	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,000			
1年以内に返済予定のリース債務	88	35	2.47	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)		1,000	0.85	平成26年4月1日～ 平成30年3月19日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	45	28	2.01	平成26年4月1日～ 平成29年9月10日
その他有利子負債				
合計	2,161	3,109		

(注) 1 「平均利率」については、借入金期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金				1,000
リース債務	16	6	4	1

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	<u>16,093</u>	<u>32,963</u>	<u>53,646</u>	<u>70,008</u>
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	<u>801</u>	<u>1,465</u>	<u>3,768</u>	<u>3,891</u>
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	<u>389</u>	<u>776</u>	<u>2,199</u>	<u>2,206</u>
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	<u>3.72</u>	<u>7.45</u>	<u>21.16</u>	<u>21.29</u>

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	<u>3.72</u>	<u>3.73</u>	<u>13.77</u>	<u>0.07</u>

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,493	6,260
受取手形	2,562,217	2,559,966
売掛金	216,239	216,483
商品及び製品	5,031	5,265
仕掛品	1,276	1,442
原材料及び貯蔵品	1,327	1,445
前払費用	34	18
関係会社短期貸付金	24	86
未収入金	584	556
繰延税金資産	417	544
その他	413	477
貸倒引当金	0	-
流動資産合計	38,059	38,548
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	14,006	14,038
構築物（純額）	1529	1483
機械及び装置（純額）	13,947	13,999
車両運搬具（純額）	111	16
工具、器具及び備品（純額）	1148	1132
土地	7,660	7,629
建設仮勘定	792	126
有形固定資産合計	17,096	16,416
無形固定資産		
のれん	2	-
工業所有権	8	3
ソフトウェア	132	39
電話加入権	25	25
施設利用権	0	0
無形固定資産合計	170	69
投資その他の資産		
投資有価証券	9,677	13,338
関係会社株式	4,456	4,864
出資金	138	115
関係会社長期貸付金	261	239
長期前払費用	127	110
その他	111	99
貸倒引当金	15	-
投資その他の資産合計	14,757	18,768
固定資産合計	32,024	35,255
資産合計	70,084	73,804

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	2, 5 4, 438	2, 5 4, 301
買掛金	11, 951	11, 944
1年内償還予定の社債	1, 500	-
短期借入金	1, 000	2, 000
1年内返済予定の長期借入金	1, 000	-
未払金	452	176
未払法人税等	610	1, 123
未払費用	1, 261	1, 204
預り金	421	288
賞与引当金	618	633
設備関係支払手形	371	359
その他	168	143
流動負債合計	23, 794	22, 176
固定負債		
長期借入金	-	1, 000
長期未払金	816	785
繰延税金負債	2, 511	3, 597
退職給付引当金	3, 346	3, 673
その他	163	169
固定負債合計	6, 838	9, 226
負債合計	30, 633	31, 403
純資産の部		
株主資本		
資本金	13, 047	13, 047
資本剰余金		
資本準備金	448	448
資本剰余金合計	448	448
利益剰余金		
利益準備金	2, 864	2, 864
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	388	342
特別償却準備金	41	27
別途積立金	17, 285	17, 285
繰越利益剰余金	3, 132	3, 923
利益剰余金合計	23, 712	24, 443
自己株式	1, 348	1, 406
株主資本合計	35, 860	36, 532
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3, 580	5, 847
繰延ヘッジ損益	10	20
評価・換算差額等合計	3, 590	5, 868
純資産合計	39, 450	42, 400
負債純資産合計	70, 084	73, 804

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高		
製品売上高	42,765	43,947
商品売上高	13,968	14,381
売上高合計	10 56,733	10 58,328
売上原価		
商品期首たな卸高	1,421	1,480
製品期首たな卸高	2,673	3,550
当期製品製造原価	3 36,574	3 36,329
当期商品仕入高	10,578	11,455
合計	51,248	52,816
他勘定振替高	1 256	1 268
商品期末たな卸高	1,480	1,657
製品期末たな卸高	3,550	3,607
売上原価合計	2 45,960	2 47,281
売上総利益	10,772	11,046
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	3,256	3,148
広告宣伝費	280	225
販売手数料	647	518
販売促進費	514	524
役員報酬	269	250
給料及び賞与	1,324	1,321
賞与引当金繰入額	177	180
退職給付引当金繰入額	126	118
福利厚生費	99	102
減価償却費	215	170
旅費及び交通費	234	240
交際費	24	23
研究開発費	463	304
その他	1,292	1,282
販売費及び一般管理費合計	3 8,926	3 8,410
営業利益	1,846	2,636
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	10 476	10 516
不動産賃貸料	527	490
為替差益	-	256
その他	76	82
営業外収益合計	1,086	1,351
営業外費用		
支払利息	33	28
社債利息	30	14
不動産賃貸費用	202	186
為替差損	119	-
関係会社支援損	-	76
その他	62	57
営業外費用合計	448	363
経常利益	2,484	3,624

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	-	4 0
投資有価証券売却益	46	169
特別利益合計	46	169
特別損失		
固定資産売却損	-	5 1
固定資産除却損	6 17	6 9
投資有価証券売却損	26	5
投資有価証券評価損	10	-
関係会社株式評価損	10	-
減損損失	7 62	7 196
災害による損失	8 14	-
環境対策費	9 44	-
特別損失合計	185	212
税引前当期純利益	2,345	3,582
法人税、住民税及び事業税	795	1,631
過年度法人税等	-	71
法人税等調整額	174	288
法人税等合計	620	1,414
当期純利益	1,725	2,167

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
原材料費			24,888	67.4	24,706	67.2
労務費			5,702	15.5	5,645	15.4
(賞与引当金繰入額)		(441)			(453)	
(退職給付引当金繰入額)		(325)			(289)	
(その他の労務費)		(4,935)			(4,903)	
経費			6,328	17.1	6,392	17.4
(外注工賃)		(765)			(862)	
(減価償却費)		(2,073)			(1,798)	
(その他の経費)		(3,490)			(3,731)	
当期総製造費用			36,919	100.0	36,744	100.0
期首仕掛品たな卸高			1,174		1,276	
合計			38,093		38,020	
他勘定振替高	1		242		248	
期末仕掛品たな卸高			1,276		1,442	
当期製品製造原価			36,574		36,329	

(脚注)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
注(1)	原価計算方法 主に工程別、組別総合原価計算であります。	原価計算方法 同左
注(2)	中間商品の仕入高792百万円は原材料費中で処理しております。	中間商品の仕入高750百万円は原材料費中で処理しております。
注(3) 1	他勘定振替高は仕掛品売却、販売費及び一般管理費への振替高であります。	同左

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	13,047	13,047
当期末残高	13,047	13,047
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	448	448
当期末残高	448	448
その他資本剰余金		
当期首残高	62	-
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
自己株式の消却	1,012	654
利益剰余金から資本剰余金への振替	950	654
当期変動額合計	62	-
当期末残高	-	-
資本剰余金合計		
当期首残高	511	448
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
自己株式の消却	1,012	654
利益剰余金から資本剰余金への振替	950	654
当期変動額合計	62	-
当期末残高	448	448
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	2,864	2,864
当期末残高	2,864	2,864
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	410	388
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	21	46
当期変動額合計	21	46
当期末残高	388	342
特別償却準備金		
当期首残高	51	41
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	9	13
当期変動額合計	9	13
当期末残高	41	27
別途積立金		
当期首残高	17,285	17,285
当期末残高	17,285	17,285

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
繰越利益剰余金		
当期首残高	3,130	3,132
当期変動額		
剰余金の配当	804	782
当期純利益	1,725	2,167
固定資産圧縮積立金の取崩	21	46
特別償却準備金の取崩	9	13
利益剰余金から資本剰余金への振替	950	654
当期変動額合計	1	790
当期末残高	3,132	3,923
利益剰余金合計		
当期首残高	23,742	23,712
当期変動額		
剰余金の配当	804	782
当期純利益	1,725	2,167
固定資産圧縮積立金の取崩	-	-
特別償却準備金の取崩	-	-
利益剰余金から資本剰余金への振替	950	654
当期変動額合計	29	730
当期末残高	23,712	24,443
自己株式		
当期首残高	1,336	1,348
当期変動額		
自己株式の取得	1,024	713
自己株式の処分	0	1
自己株式の消却	1,012	654
当期変動額合計	11	58
当期末残高	1,348	1,406
株主資本合計		
当期首残高	35,964	35,860
当期変動額		
剰余金の配当	804	782
当期純利益	1,725	2,167
自己株式の取得	1,024	713
自己株式の処分	0	1
自己株式の消却	-	-
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
当期変動額合計	104	672
当期末残高	35,860	36,532

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	3,203	3,580
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	376	2,267
当期変動額合計	376	2,267
当期末残高	3,580	5,847
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	10	10
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	10
当期変動額合計	0	10
当期末残高	10	20
評価・換算差額等合計		
当期首残高	3,213	3,590
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	377	2,277
当期変動額合計	377	2,277
当期末残高	3,590	5,868
純資産合計		
当期首残高	39,177	39,450
当期変動額		
剰余金の配当	804	782
当期純利益	1,725	2,167
自己株式の取得	1,024	713
自己株式の処分	0	1
自己株式の消却	-	-
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	377	2,277
当期変動額合計	272	2,950
当期末残高	39,450	42,400

【注記事項】

(重要な会計方針)

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 9～50年

機械及び装置 8～9年

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この減価償却方法の変更による影響額は軽微であります。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

長期前払費用

定額法によっております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えて、過去の実績に基づき支給見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、過去勤務債務については、その発生額を一括償却しております。数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により、翌期から費用処理しております。

(5) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。為替予約が付されている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

為替予約取引

金利スワップ取引

(ヘッジ対象)

外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

借入金の利息

ヘッジ方針

当社は、基本的に通常の営業取引の範囲内で、外貨建金銭債権債務に係る為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を行っております。また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始以降、継続して相場変動を完全に相殺すると想定することができるため、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であることを確認することにより、有効性の判定に代えております。

金利スワップについては、特例処理によっているため、有効性の評価を省略しております。

(6) その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

(不適切な会計処理について)

当社静岡工場において、不適切な会計処理が判明したことから、外部の専門家で構成される第三者委員会を設置し調査を進めてまいりました。

その結果、過去に行われた取引の一部に関して不適切な会計処理が確認されました。

(訂正報告書の提出について)

当社の不適切な会計処理について、当社は金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき過去に提出いたしました有価証券報告書に記載されている連結財務諸表及び財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、有価証券報告書の訂正報告書を提出することを決定しました。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産から控除した減価償却累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	7,567百万円	7,803百万円
構築物	1,444	1,500
機械及び装置	31,908	33,265
車両運搬具	61	65
工具、器具及び備品	3,335	3,430
計	44,317百万円	46,064百万円

2 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
売掛金	6,412百万円	6,783百万円
受取手形	1,844百万円	1,823百万円
支払手形	864百万円	837百万円

3 偶発債務

下記の関係会社の金融機関からの借入金に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
Okamoto North America, Inc.		187百万円 (2,000千米ドル)
Vina Okamoto Co.,Ltd.	104百万円 (1,275千米ドル)	91百万円 (975千米ドル)

4 輸出荷為替手形割引高

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
	82百万円	113百万円

5 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	891百万円	1,033百万円
支払手形	263百万円	238百万円

(損益計算書関係)

- 1 商品及び製品より他勘定への振替高は、販売費への振替高であります。
- 2 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下げ額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上原価	228百万円	192百万円

- 3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	1,037百万円	806百万円

- 4 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械及び装置		0百万円

- 5 固定資産売却損の内訳

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
土地		1百万円

- 6 固定資産除却損の内訳

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	3百万円	4百万円
構築物		2
機械及び装置	14	2
その他	0	0
計	17百万円	9百万円

- 7 減損損失

当社は以下の資産について減損損失を計上しております。

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

用途	種類	場所
賃貸不動産	土地	大阪府東大阪市、東京都台東区

(経緯)

当社は、減損対象資産に関しては売却の決定及び購入者との契約を締結した時点において、使用範囲又は方法について回収可能価額を著しく低下させる変化が生じたことを認識し、当該減少額を減損損失(62百万円)として特別損失に計上しております。

(グルーピングの方法)

当社は、主に継続的に収支の把握を行っている管理計算上の区分別(製品群別)に資産をグルーピングしております。ただし、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件毎に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

当該資産の回収可能価額は売却契約に基づく売却額を使用しております。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

用途	種類	場所
事業用資産	建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、 工具器具備品	茨城県龍ヶ崎市
事業用資産	建物、機械及び装置、車両運搬具、工具器具備品等	福島県いわき市

(経緯)

当社は、入浴剤事業およびブーツ事業の事業用資産において収益性の低下が生じ、短期的な業績回復が見込まれないとの判断から「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当該各資産の帳簿価額を1円まで減額し、当該減少額を減損損失(196百万円)として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は、建物100百万円、構築物1百万円、機械及び装置91百万円、車両運搬具0百万円、工具器具備品等3百万円であります。

(グルーピングの方法)

当社は、主に継続的に収支の把握を行っている管理計算上の区分別(製品群別)に資産をグルーピングしております。ただし、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件毎に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

当該資産グループの建物、構築物、機械及び装置、車両運搬具、工具器具備品等の回収可能価額は使用価値により算定しております。

8 災害による損失

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の損害に対する建物等の改修等に係る費用であります。

9 環境対策費

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

工場跡地の産業廃棄物処理に要する費用を環境対策費として計上しております。

10 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
製品及び商品売上高	12,242百万円	12,977百万円
受取配当金	170百万円	215百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,742,189	3,276,108	3,000,840	4,017,457

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

主に市場買付による増加 3,260,000株
 単元未満株式の買取りによる増加 16,108株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却による減少 3,000,000株
 単元未満株式の売渡による減少 840株

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	4,017,457	2,289,756	2,003,365	4,303,848

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

主に市場買付による増加 2,250,000株
 単元未満株式の買取りによる増加 39,756株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却による減少 2,000,000株
 単元未満株式の売渡による減少 3,365株

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・無形固定資産

主として、本社における基幹業務システム(ソフトウェア)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、本社における事務用機器(工具、器具及び備品)であります。

・無形固定資産

主として、工場における人事情報管理システム(ソフトウェア)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額
 前事業年度(平成24年3月31日)

	工具、器具及び備品等
取得価額相当額	111百万円
減価償却累計額相当額	103
期末残高相当額	8百万円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため支払利子込み法により算定しております。

当事業年度(平成25年3月31日)

	工具、器具及び備品等
取得価額相当額	59百万円
減価償却累計額相当額	59
期末残高相当額	百万円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年以内	8百万円	
1年超		
合計	8百万円	

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料及び減価償却費相当額

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	17百万円	8百万円
減価償却費相当額	17百万円	8百万円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(有価証券関係)

前事業年度 (平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものは、ありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	4,355
(2) 関連会社株式	100
計	4,456

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度 (平成25年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものは、ありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	4,763
(2) 関連会社株式	100
計	4,864

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

[次へ](#)

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

流動の部

	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	233百万円	239百万円
賞与引当金に係る法定福利費	29	30
未払法人事業税等	50	95
製品評価損	56	55
決算訂正による影響額	29	122
その他	24	11
計	424百万円	556百万円
(繰延税金負債)		
繰延ヘッジ損益	6百万円	12百万円
計	6百万円	12百万円
繰延税金資産(流動)純額	417百万円	544百万円

固定の部

	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
(繰延税金資産)		
退職給付引当金	1,185百万円	1,301百万円
吸収分割による 引継資産評価差額	64	50
厚生年金基金解散に伴う 加入員補填額	187	182
減損損失	150	195
未払役員退職慰労金	80	75
有価証券評価損	65	65
その他	44	40
小計	1,778百万円	1,910百万円
評価性引当金	217百万円	241百万円
計	1,561百万円	1,669百万円
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	213百万円	187百万円
特別償却準備金	22	15
合併時受入土地評価益	1,883	1,867
その他有価証券評価差額金	1,953	3,196
計	4,072百万円	5,267百万円
繰延税金負債(固定)純額	2,511百万円	3,597百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.5%	37.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入 されない項目	3.4%	3.8%
受取配当金等永久に益金に算入 されない項目	5.5%	3.8%
試験研究費特別税額控除額	2.8%	1.8%
住民税均等割等	0.1%	0.3%
評価性引当金増減	3.9%	0.7%
税率変更による期末繰延税金資産・ 負債の減額修正	2.2%	
その他	3.1%	2.4%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	26.4%	39.4%

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	375.79円	412.89円

項目	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額	16.21円	20.89円
(算定上の基礎)		
損益計算書上の当期純利益(百万円)	1,725	2,167
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,725	2,167
普通株式の期中平均株式数(千株)	106,424	103,775
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	平成17年6月29日定時株主総会決議ストック・オプション(新株予約権1,876個) 普通株式1,876千株	

- (注) 1 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 2 当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
テイ・エステック(株)	1,176,000	3,148
丸紅(株)	4,412,000	3,101
(株)みずほフィナンシャルグループ	11,278,860	2,244
(株)チヨダ	400,400	1,002
東京建物(株)	1,084,278	714
N K S Jホールディングス(株)	319,750	627
ヒューリック(株)	528,532	408
(株)ミツウロコグループホールディングス	620,000	305
日本ゼオン(株)	300,000	292
理研コランダム(株)	1,132,760	195
その他 52銘柄	3,835,604	1,297
計	25,088,184	13,338

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	11,573	482	213 (100)	11,841	7,803	325	4,038
構築物	1,973	12	2 (1)	1,983	1,500	57	483
機械及び装置	35,856	1,574	165 (91)	37,264	33,265	1,428	3,999
車両運搬具	73	0	0 (0)	72	65	5	6
工具、器具及び 備品	3,483	108	29 (0)	3,563	3,430	123	132
土地	7,660		31	7,629			7,629
建設仮勘定	792	1,403	2,069 (3)	126			126
有形固定資産計	61,413	3,581	2,513 (196)	62,481	46,064	1,941	16,416
無形固定資産							
のれん				197	197	2	
工業所有権				41	37	4	3
ソフトウェア				563	523	102	39
電話加入権				25			25
施設利用権				29	29	0	0
無形固定資産計				858	788	109	69
長期前払費用	446		4	442	313	20	128 <18>

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	福島工場	事業用建物	342百万円
機械及び装置	静岡工場	プラスチック製品製造設備	1,144百万円
	茨城工場	ゴム・プラスチック製品製造設備	241百万円
	福島工場	プラスチック製品製造設備	187百万円

2 当期減少額()内は内書きで当期に発生した減損損失によるものであります。

3 無形固定資産については、資産総額の1%以下のため「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

4 長期前払費用の「差引当期末残高」の< >内は内書きで1年以内に償却する予定額であり、貸借対照表の流動資産の前払費用に含めて表示しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	15		15	0	
賞与引当金	618	633	602	16	633

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、洗替による戻入額であります。

2 賞与引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、前期引当金の戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

(a) 資産の部

流動資産

現金及び預金

区分	金額(百万円)
預金	
当座預金	3,144
普通預金	2,017
定期預金	1,000
別段預金	84
外貨預金	9
計	6,256
現金	4
合計	6,260

受取手形

相手先別	金額(百万円)
オカモト化成品(株)	943
世界長ユニオン(株)	880
ピップ(株)	485
ホリアキ(株)	267
(株)コメリ	217
その他	3,171
合計	5,966

(注) 1 受取手形期日別内訳

期日別	平成25年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降	合計
金額(百万円)	2,046	1,825	1,268	637	155	14	19	5,966

売掛金

相手先別	金額(百万円)
Okamoto Sandusky Manufacturing, LLC	1,861
世界長ユニオン(株)	1,722
森川産業(株)	1,317
オカモト化成品(株)	1,131
リンテック(株)	479
その他	9,971
合計	16,483

(注) 1 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高	平成24年4月～平成25年3月		当期末残高	回収率	滞留期間
A(百万円)	発生高 B (百万円)	回収高 C (百万円)	D(百万円)	$\frac{C}{A+B} \times 100(\%)$	$D \div \frac{B}{12}$ (ヶ月)
16,239	64,297	64,053	16,483	79.53	3.07

この計算には、関係会社分を含めて計算してあります。また、消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記A～Dの金額には消費税等が含まれています。

商品及び製品

区分	金額(百万円)
商品	
プラスチックフィルム	20
医療・日用品	1,004
建装・産業資材	46
衣料・スポーツ用品	586
計	1,657
製品	
プラスチックフィルム	1,030
医療・日用品	1,077
建装・産業資材	1,431
衣料・スポーツ用品	68
計	3,607
合計	5,265

仕掛品

区分	金額(百万円)
プラスチックフィルム	345
医療・日用品	438
建装・産業資材	650
衣料・スポーツ用品	1
シューズ	6
合計	1,442

原材料及び貯蔵品

品名	金額(百万円)
ゴム用原料薬品	58
プラスチック用原料薬品	796
医療・日用品用原料薬品	56
材料生地	279
買入部分品	25
重油	3
荷造材料	186
その他補助材料	38
合計	1,445

固定資産

関係会社株式

名称	金額(百万円)
Okamoto North America, Inc.	2,152
イチジク製薬(株)	1,368
Okamoto Rubber Products Co.,Ltd.	224
Siam Okamoto Co.,Ltd.	180
オカモト通商(株)	138
その他	800
合計	4,864

(b) 負債の部

流動負債

支払手形

相手先別	金額(百万円)
オカモト通商(株)	752
小菱商事(株)	272
日弘ビックス(株)	180
日本セロンパック(株)	176
加藤産商(株)	126
その他	2,792
合計	4,301

支払手形期日別内訳

期日別	平成25年 4月	5月	6月	7月	8月	合計
金額(百万円)	1,257	1,122	1,038	744	138	4,301

買掛金

相手先別	金額(百万円)
丸紅(株)	1,114
住友化学(株)	759
伊藤忠商事(株)	675
(株)サンエー化研	665
サンアロマー(株)	475
その他	8,255
合計	11,944

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第116期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 平成24年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第116期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 平成24年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第117期第1四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日) 平成24年8月9日関東財務局長に提出。

第117期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日) 平成24年11月9日関東財務局長に提出。

第117期第3四半期(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日) 平成25年2月12日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成24年7月5日関東財務局長に提出。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間(自 平成24年6月1日 至 平成24年6月30日) 平成24年7月11日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成24年7月1日 至 平成24年7月31日) 平成24年8月10日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成24年8月1日 至 平成24年8月31日) 平成24年9月13日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成24年9月1日 至 平成24年9月30日) 平成24年10月12日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成24年10月1日 至 平成24年10月31日) 平成24年11月14日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成24年11月1日 至 平成24年11月30日) 平成24年12月12日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成24年12月1日 至 平成24年12月31日) 平成25年1月11日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年1月31日) 平成25年2月14日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成25年2月1日 至 平成25年2月28日) 平成25年3月14日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年3月31日) 平成25年4月12日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年4月30日) 平成25年5月14日関東財務局長に提出。

報告期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年5月31日) 平成25年6月13日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成26年12月12日

オカモト株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	栗原学	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北澄和也	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	今西恭子	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオカモト株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オカモト株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

追加情報に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の連結財務諸表に対して平成25年6月27日に監査報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年12月12日

オカモト株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	栗原学	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北澄和也	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	今西恭子	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオカモト株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第117期事業年度の訂正後の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オカモト株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

追加情報に記載されているとおり、会社は、財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の財務諸表に対して平成25年6月27日に監査報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管している。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。